

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第374集

古館遺跡発掘調査報告書

仙人峠道路工事関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

古館遺跡発掘調査報告書

仙人峠道路工事関連遺跡発掘調査

序

本県には、縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地域にあり、10,000カ所にも及ぶ遺跡が確認されています。これらの先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実もまた重要な一施策であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発の調和も今日的課題であり、当文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、仙人峠道路工事に関連して、平成11・12年度両年にわたって調査した古館遺跡調査結果をまとめたものです。調査によって、縄文時代の後・晩期に作られた掘立柱建物跡・土坑のほか、土器・石器などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました国土交通省東北地方整備局三陸国道工事事務所・釜石市教育委員会をはじめ、関係各位に衷心より謝意を表します。

平成13年8月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 村上勝治

例 言

1. 本報告書は、釜石市甲子町第7地割29-2ほかに所在する古館遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本調査は、仙人峠道路建設に伴い遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は建設省（現国土交通省）三陸国道工事事務所と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号は、MG70-1175、遺跡略号は、FD-99及びFD-00である。
4. 野外調査期間及び発掘調査面積は次の通りである。

平成11年度

期間	平成11年8月17日～11月2日
調査面積	4,050 m ²
調査担当者	松尾 芳幸 晴山 雅光

平成12年度

期間	平成12年4月12日～5月31日
調査面積	2,080 m ²
調査担当者	早坂 悟 岩淵 計
5. 室内整理は、平成11年11月1日～平成12年3月31日、平成12年11月1日～平成13年3月30日まで実施し、平成11年度は松尾 芳幸が、平成12年度は早坂 悟が担当した。
6. 本報告書の執筆は、Ⅰ～Ⅴは松尾・早坂がⅥを早坂が担当した。編集は早坂が行った。
7. 遺物の鑑定他、下記の業務は次の方々に依頼した。（敬称略）
 - （1）石質鑑定 花崗岩研究会
 - （2）基準点測量 釜石測量設計株式会社
8. 野外調査及び報告書作成にあたり、釜石市教育委員会の方々のほか以下の方々にご協力・ご指導いただいた。（敬称略）

宇部則保 村木淳 小久保拓也（八戸市教育委員会）佐々木浩一（八戸市博物館）
9. 野外調査では釜石市の作業員17名、室内整理では当センターの期限付職員数名のご協力をいただいた。
10. 土層の観察は、『新版標準土色帖』（小山・竹原：1989）によった。
11. 調査成果の一部を発表した現地説明会資料や調査略報の概略と、本書と記載事項が異なる場合は、全て本報告書が優先する。
12. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、岩手県埋蔵文化財センターで保管・管理している。

本文目次

序	
例言	
I 調査に至る経過	3
II 遺跡の立地と環境	3
1. 遺跡の位置	3
2. 地理的環境と立地	3
3. 地質と基本土層	5
4. 周辺の遺跡	5
III 野外調査と室内整理の方法	11
1. 野外調査	11
2. 室内整理	11
IV 検出された遺構と遺構内出土遺物	13
1. 土坑と出土遺物	13
2. 掘立柱建物跡と出土遺物・柱穴群	20
3. 墓坑と出土遺物	27
V 遺構外出土遺物	36
1. 土器類	36
2. 石器類	37
3. 陶磁器	37
4. 古銭	37
VI まとめ	43
1. 遺構	43
2. 遺物	43
おわりに	43

図版目次

図1 岩手県全図	1	図13 柱穴群(1)	24
図2 遺跡位置図	2	図14 柱穴群(2)・(3)	25
図3 地形分類図	4	図15 墓坑(1)(第1号～第9号)	29
図4 基本土層柱状図	5	図16 墓坑(2)(第10号～第14号)	31
図5 周辺の遺跡	7	図17 遺構内出土遺物(1)	32
図6 遺構配置図	10	図18 遺構内出土遺物(2)	33
図7 土坑(1)(第1号～第8号)	15	図19 遺構内出土遺物(3)	34
図8 土坑(2)(第9号～第14号)	17	図20 遺構内出土遺物(4)	35
図9 土坑(3)(第15号～第16号)	19	図21 遺構外出土遺物(1)	38
図10 第1号・第2号掘立柱建物跡	21	図22 遺構外出土遺物(2)	39
図11 第3号掘立柱建物跡	22	図23 遺構外出土遺物(3)	40
図12 第4号掘立柱建物跡	23		

写真図版目次

写真図版1 空中写真	47	写真図版10 墓坑(3)	56
写真図版2 基本土層他	48	写真図版11 墓坑(4)	57
写真図版3 土坑(1)	49	写真図版12 遺構内出土遺物(1)	58
写真図版4 土坑(2)	50	写真図版13 遺構内出土遺物(2)	59
写真図版5 土坑(3)	51	写真図版14 遺構内出土遺物(3)	60
写真図版6 土坑(4)	52	写真図版15 遺構内出土遺物(4)	61
写真図版7 掘立柱建物跡	53	写真図版16 遺構外出土遺物(1)	62
写真図版8 墓坑(1)	54	写真図版17 遺構外出土遺物(2)	63
写真図版9 墓坑(2)	55	写真図版18 遺構外出土遺物(3)	64

表目次

表1 周辺遺跡一覧表	6・9	表4 古銭観察表	42
表2 土器観察表	41	表5 陶磁器観察表	42
表3 石器観察表	42	表6 和鏡観察表	42

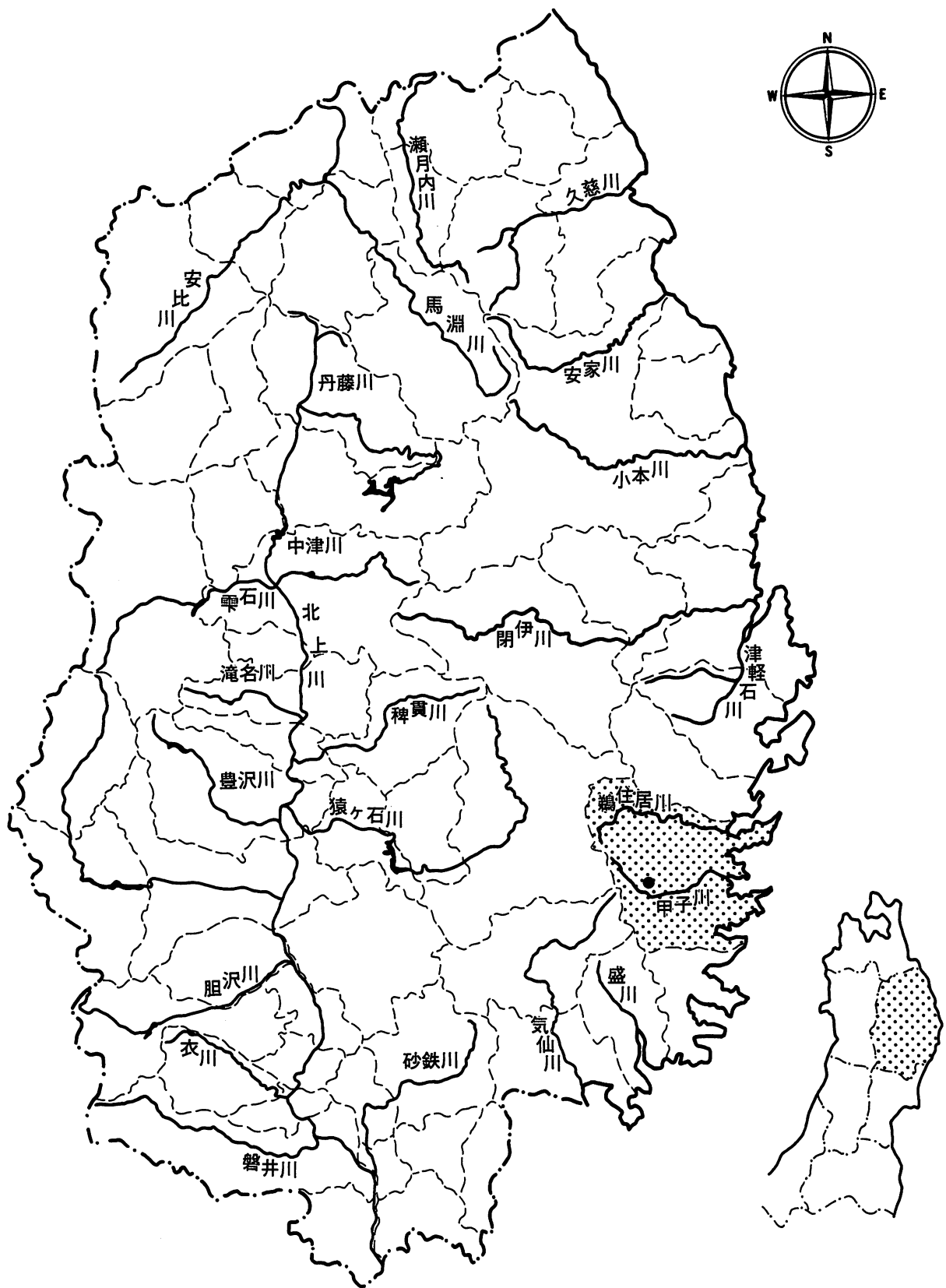


図1 岩手県全図

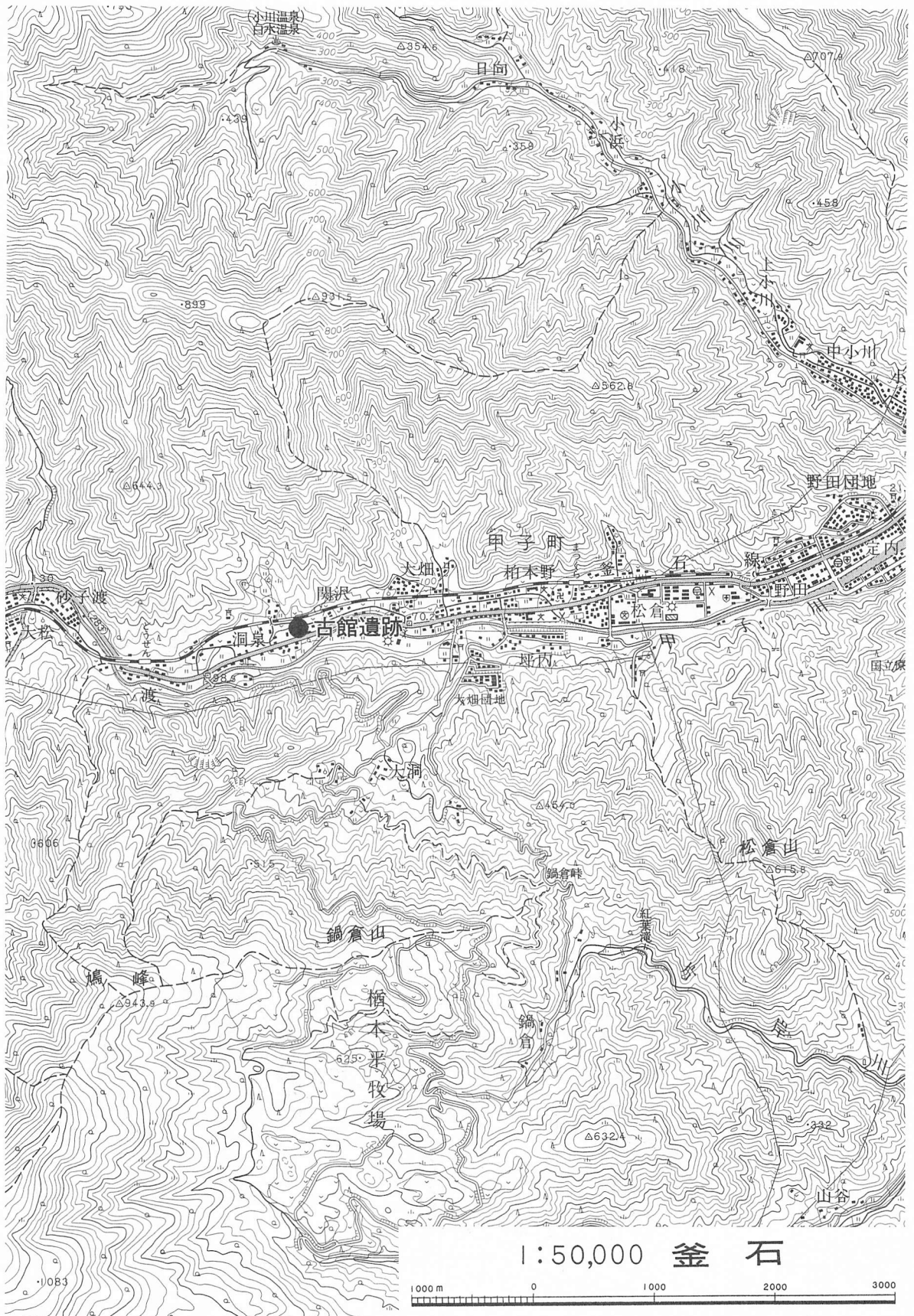


図2 遺跡位置図

I 調査に至る経過

古館遺跡は、一般国道283号仙人峠道路改築事業の施行に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道283号は、岩手県沿岸部（釜石市）と内陸部（花巻市）とを結ぶ総延長96.6kmの幹線道路である。このうち、仙人峠区間は狭隘な仙人トンネル（L=2.5km、W=5.1m）を含む3.4kmが未改良区間であり、更に急カーブ・急勾配が連続するなど非常に厳しい道路状況となっている。

仙人峠道路改築事業は、この区間の安全で円滑な道路交通を確保するため、一次改築事業として釜石市甲子町から遠野市上郷町平倉までの間約18.6kmについて平成4年度に建設省（現・国土交通省）と岩手県により新規事業化された。将来は、「東北横断道釜石秋田線」の一部となり、広範な地域における経済・産業・文化等の発展に寄与するものである。

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

本遺跡の所在する釜石市は、県都盛岡市より南東に約140kmの距離を置き、岩手県沿岸の中央やや南寄りに位置している。北は山田町、西は遠野市、南は住田町と三陸町と接する。市の中央を東日本旅客鉄道釜石線、国道283号線が横断している。本遺跡は、甲子川の北側、東日本旅客鉄道釜石線導洞泉駅から東に約1.5kmに位置し、その地点は東経141度46分41秒、北緯39度15分1秒付近である。

2. 地理的環境と立地

釜石市は、県東部太平洋沿岸地域の一画を占め、面積は、444.77km²、人口は平成12年1月1日現在男22,690人、女25,119人、合計47,809人である。北は大槌町、西は遠野市及び住田町、南は三陸町及び大船渡市と接しており、岩手県の出先機関が設置されるなど、この地域における行政・経済・文化の中心を担う中核都市である。

昭和12(1937)年市政が施行された後、昭和30(1955)年に、甲子・鶴住居・栗橋・唐丹の4村を合併し現在に至っている。釜石鉱山が官営になって以来、漁業とともに「鉄のまち」として一躍発展し、人口は一時9万人台（当時県第2位）に達したが、現在は製鉄関連業の合理化の影響を受け約半数にまで減少しており、水産業・商業をはじめ鉄に代わる新たな基幹産業の復興に力を入れているところである。

地形的には、北上山地中央部東海岸地域に相当し、西から東に向かって標高が低くなる傾向を持つ。海岸線は大槌湾、両石湾、釜石湾及び唐丹湾と入り組んでおり、いわゆる三陸リアス式海岸の典型である。主要河川は鶴住居川・甲子川・熊野川でありいくつかの支流と合流し扇状地を形成しながら太平洋に注いでいる。

遺跡は甲子川左岸の河岸段丘状の緩斜面に位置する。北側の山地を水源とした小河川より流入したと思われる小礫や褐色の砂質シルト土が堆積を繰り返す形で地形が形成されている。遺跡の標高は94mで、調査前の現況は宅地及び畑地である。



图3 地形分類图

3. 地質と基本土層

釜石市西部に位置する北上山地は、粘板岩・頁岩・チャート・輝緑凝灰岩などから構成される古生層を基盤としている。また、甲子川流域は、幾度かの氾濫等によって形成された沖積層が細長く分布し砂礫よりなっている。三方を山地に囲まれ甲子川沿いに位置する本遺跡は、周辺は古生層を基盤とし、遺跡内は堆積物である砂礫層を基盤としている。砂礫の層序及び層厚は遺跡内でも一様ではなくその傾向は捉えにくい。

調査区内では基本的には次のような層序が観察された。

第Ⅰ a 層 黒褐色土 (10YR2/3) シルト

耕作土及び表土。層厚20~40cm

第Ⅰ b 層 褐色土 (10YR4/3) 砂質シルト

盛土、調査区西側に見られる。

層厚60~80cm

第Ⅱ層 黒色土 (10YR2/1) シルト

遺物包含層。調査区西側に見られる。層厚10~20cm

第Ⅲ a 層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質シルト

遺構最終検出面。大小の礫を含む砂層。層厚不明。

第Ⅲ b 層 黄褐色土 (10YR5/8) 粘土質シルト

Ⅲ a 層の下に部分的に入る粘土質土。層厚10~40cm

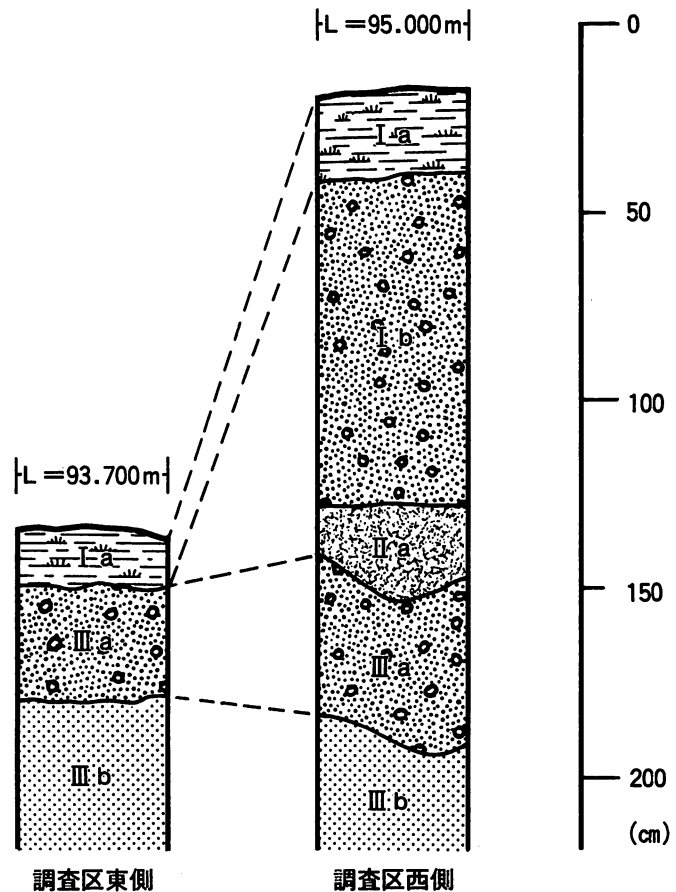


図4 基本土層柱状図

4. 周辺の遺跡

『岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧』によると、本遺跡の存在する釜石市の遺跡総数は232ヶ所となっている。時代毎のそれぞれの遺跡数は、縄文時代の散布地・集落跡189、貝塚6、古代3、中世の城館跡24、縄文と古代の複合遺跡3、塚2、近代1、その他不明なもの4である。縄文時代の遺跡の性格はそのほとんどが散布地であり、集落跡と目されているものは2ヶ所に過ぎない。釜石市ではこれまで実際に発掘調査された例が少なく、それぞれの時代・地域の遺跡の特徴を考察するための資料が乏しい。以下便宜的にはあるが、本遺跡周辺の甲子川流域の遺跡を中心に掲載した。

表1 周辺遺跡一覧表

※ 壊滅

No.	遺跡名	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	大橋桜沢	散布地	縄文土器	甲子町第1地割	
2	天洞	散布地	縄文土器	甲子町第1地割	
3	唄貝	散布地	縄文土器	甲子町第2地割	
4	枯松洞	散布地	石器(時代不明)	甲子町第2地割	
5	大松1	散布地	縄文土器	甲子町第3地割	※
6	大松2	散布地	縄文土器	甲子町第3地割	
7	大松3	散布地	縄文土器	甲子町第3地割	
8	大松4	散布地	縄文土器	甲子町第3地割	
9	大松5	散布地	縄文土器	甲子町第3地割	
10	砂子渡	散布地	縄文土器	甲子町砂子渡	
11	砂子渡	城館跡	縄文土器、土師器	甲子町砂子渡	
12	洞泉	城館跡	縄文土器(前期)	甲子町洞泉	
13	洞泉弁天沢	洞穴	縄文土器、石器	甲子町第6~7地割	
14	古館	城館跡	堀(中世)	甲子町関沢	
15	洞関	散布地	土師器(平安)	甲子町関沢	
16	姥ヶ沢	散布地	縄文土器	甲子町第8地割	
17	不動滝	城館跡	縄文土器、石器、土師器	甲子町大畑	
18	坪内	散布地	縄文土器(早・前・中・晩期)	甲子町字大畑	※
19	大洞1	散布地	縄文土器、石器	甲子町第5地割	
20	大洞2	散布地	縄文土器、石器	甲子町第5地割	
21	坪内	散布地	縄文土器、石器	甲子町第9地割	
22	鍋倉	散布地	縄文土器(中~晩期)	甲子町第 地割	
23	鍋倉1	散布地	縄文土器、石器	唐丹町字川目	
24	鍋倉2	散布地	縄文土器、石器	唐丹町字川目	
25	鍋倉3	散布地	縄文土器、石器	唐丹町字川目	
26	檜ノ木平1	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
27	檜ノ木平2	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
28	檜ノ木平3	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
29	檜ノ木平4	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
30	檜ノ木平5	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
31	檜ノ木平6	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
32	檜ノ木平7	散布地	縄文土器	唐丹町字川目	
33	東柏木野	城館跡	縄文土器	甲子町松倉	
34	松倉衛生処理場	城館跡	縄文土器(晩期)	甲子町松倉	
35	野田	城館跡	縄文土器(中・晩期)、石棒	甲子町字野田	※
36	野田	散布地	縄文土器	甲子町第11地割	
37	柏館(安倍館)	城館跡	平場(中世)	甲子町定内	
38	向定内	散布地	縄文土器	甲子町	
39	大沢	散布地	石皿、縄文土器	甲子町	※宅地化
40	大沢	散布地	縄文土器	甲子町向定内	
41	上小川	散布地			遺跡名不明
42	下小川	散布地	縄文土器(後期)、注口土器	甲子町字下小川	※
43	新小川	散布地	縄文土器	小川町3丁目	
44	桃ノ本渡	散布地			遺跡名不明
45	東甲羅沢1	散布地	縄文土器	甲子町第16地割	
46	東甲羅沢2	散布地	縄文土器	甲子町第16地割	
47	上甲羅沢1	散布地			遺跡名不明
48	上甲羅沢2	散布地			遺跡名不明
49	川目	散布地	縄文土器	甲子町上小川	
50	仙盤	散布地	縄文土器	甲子町上小川	
51	楽水	散布地	縄文土器	甲子町上小川	
52	小浜	散布地	縄文土器	甲子町上小川	
53	日向	散布地	縄文土器(晩期)、石器	甲子町上小川	
54	佐山1	散布地	縄文土器	小川町2丁目	
55	佐山2	散布地	縄文土器、石器	小川町2丁目	
56	礼ヶ口	散布地	縄文土器(中期)、弥生土器、土師器	甲子町字礼ヶ口	※
57	新礼ヶ口	散布地	縄文土器、石器	甲子町第13地割	
58	源太沢1	散布地	縄文土器(後期)、石匙	源太沢町	※
59	源太沢2	散布地	縄文土器	源太沢町1丁目	宅地化
60	新源太沢1	散布地	縄文土器	源太沢町2丁目	
61	新源太沢2	散布地	縄文土器	源太沢町2丁目	
62	中妻トンネル	散布地	須恵器(奈良~平安)	上中島1丁目	
63	大天場山	散布地・集落跡	平場、縄文土器、土師器	八雲町	
64	八雲町	散布地	縄文土器(前・中期)	八雲町	宅地化
65	緑ヶ丘	散布地	縄文土器(前・中期)	八雲町	宅地化

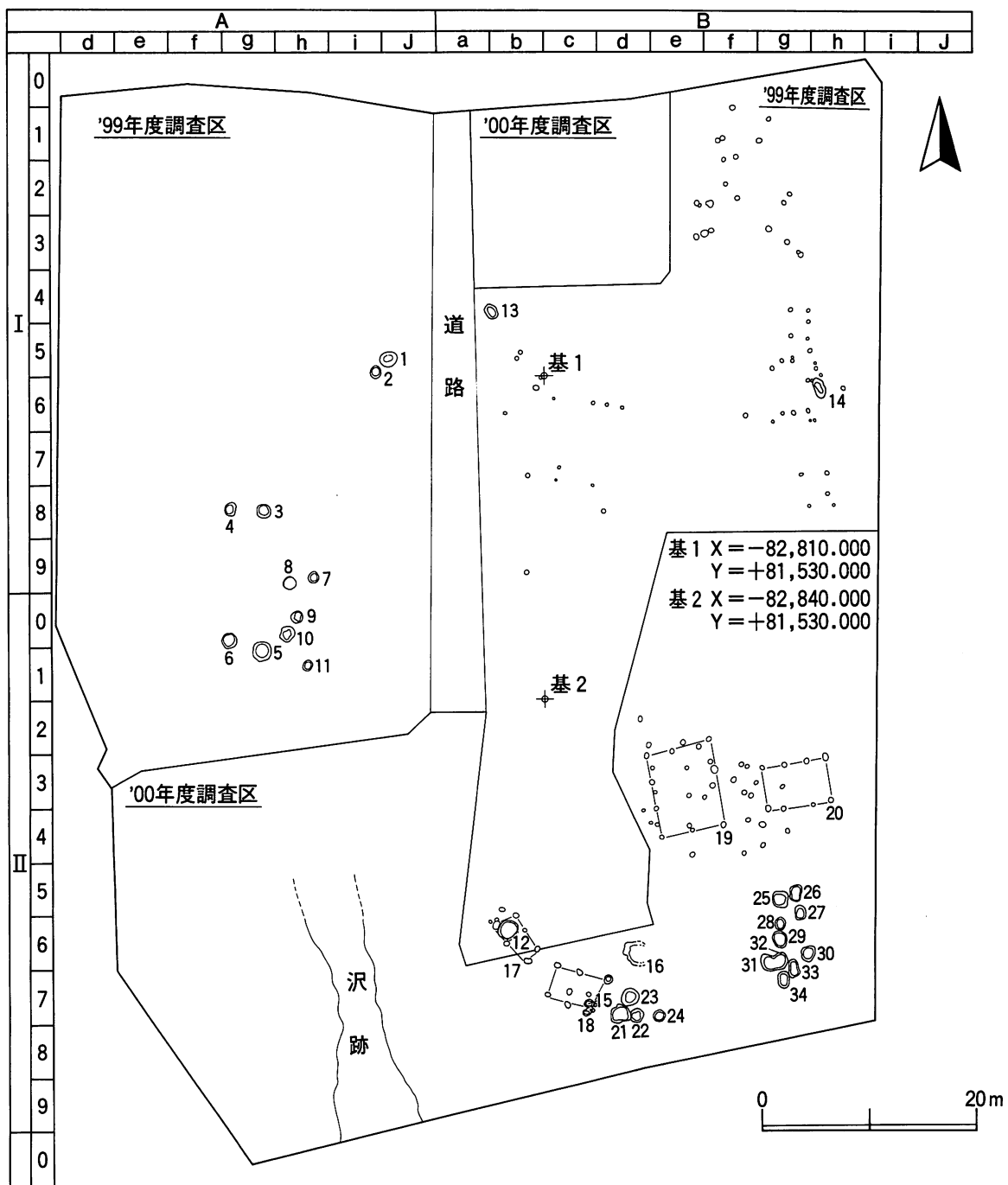


図5 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	遺構・遺物	所在地	備考
66	沢山	散布地	縄文土器	八雲町第13地割	
67	中妻宝町	散布地	縄文土器(中期)	中妻町2丁目	市街化
68	鳥ヶ沢	散布地	土師器(古代)	千鳥町2丁目	変電所用地
69	八幡館	城館跡	平場、土塁(中世)	鈴子町	鉾澤捨場跡
70	石応寺裏	集落跡	縄文土器(前・中期)	大只越町1丁目	
71	大只越	散布地	縄文土器	大只越町2丁目	
72	狐崎城	城館跡	平場、堀(中世)	浜町	
73	女遊部Ⅰ	散布地	縄文土器(前・中期)	両石町女遊部	一部道路化
74	女遊部Ⅱ	散布地	縄文土器	両石町女遊部	
75	新女遊部1	散布地	縄文土器	両石町第4地割	※裁判所用地
76	新女遊部2	散布地	縄文土器	両石町第4地割	
77	東前	散布地	縄文土器	東前1丁目	
78	浜町	散布地	縄文土器、石器、土師器	浜町2丁目	
79	水海1	散布地	縄文土器(後・晩期)	両石町字水海海岸	※
80	水海2	散布地	縄文土器(後・晩期)	両石町第地割	
81	鏡	散布地	縄文土器(後・晩期)	両石町第地割	植林地
82	ヤツギ	貝塚	縄文土器、貝類	新浜町	ホテル用地化
83	小縄崎	貝塚	縄文土器、石器、貝塚	新浜町小縄崎	
84	泉	散布地	縄文土器(後期)	釜石字泉	
85	ヤカタ浜貝塚	貝塚	縄文土器(中・晩期)、石器、貝	釜石字泉	
86	大平町3丁目	散布地	縄文土器(後・晩期)	大平町3丁目	※
87	大平町3丁目1	散布地	縄文土器(後・晩期)	大平町3丁目	※
88	上平田1	散布地	縄文土器、石器	平田町上平田	
89	上平田2	散布地	縄文土器、石器	平田町上平田	
90	上平田3	散布地	縄文土器、石器	平田町上平田	
91	上平田4	散布地	縄文土器、石器	平田町上平田	
92	平田小学校	散布地	縄文土器、石器	平田町	
93	塚群	塚?・古墳?		平田町2・4地割境	
94	千代ヶ浜	散布地	縄文土器(後・晩期)、土師器	平田町	
95	エゾ森	城館跡	須恵器、空堀(時代不明)	平田町千代ヶ浜	
96	たる水	散布地	縄文土器	平田町垂水	
97	小石浜	散布地	縄文土器	平田町尾崎白浜	
98	尾崎白浜1	散布地	縄文土器(中～晩期)	大字平田	
99	尾崎白浜2	散布地	縄文土器	大字平田	
100	尾崎白浜3	散布地	縄文土器	大字平田	
101	わらび野	散布地	縄文土器(後期)	大字平田(尾崎小南)	
102	栃浜	散布地	縄文土器(中～晩期)	大字平田	
103	青出	散布地	縄文土器(中期)?	平田町字白浜	
104	新小松	散布地	縄文土器	平田町尾崎白浜小松浜	
105	小松	散布地	縄文土器(後・晩期)	大字平田	
106	赤磯	散布地	縄文土器	平田町尾崎白浜小松浜	
107	佐須	散布地	縄文土器(後・晩期)、石器	大字平田	水道水源化
108	鷲巣	散布地?	縄文土器、貝塚?	平田町尾崎白浜佐須	
109	油浜	貝塚	縄文土器、貝類	平田町尾崎白浜佐須	
110	大根崎	散布地	縄文土器、貝塚?	平田町尾崎白浜佐須	
111	山谷	散布地	縄文土器	唐丹町山谷	
112	落合	散布地	縄文土器(後・晩期)	唐丹町	
113	川目	散布地	縄文土器	唐丹町川目	
114	伝城	城館跡	平場、空堀、土塁	唐丹町字小白浜	
115	小白浜	散布地	縄文土器	唐丹町字小白浜	
116	迎館	城館跡	平場(中世)	唐丹町字小曾根	
117	清場鼻	散布地	縄文土器	唐丹町小白浜	
118	千葉館	城館跡	平場、空堀、主郭、帯郭(中世)	唐丹町字桜峠	
119	シラ崎	散布地	縄文土器	唐丹町小白浜	
120	佛ヶ崎	貝塚	縄文土器、貝類	唐丹町小白浜	
121	本郷	散布地	縄文土器(後期)、石剣、石棒、石斧	唐丹町字本郷	宅地化
122	峠塚	塚		唐丹町大曾根	

引用・参考文献

- 岩手県企画開発室 1975 「北上山系開発地域 土地分類基本調査(釜石市)」 岩手県
- 岩手県教育委員会 1999 「岩手県埋蔵文化財包蔵一覽」
- 釜石市教育委員会 1991 「釜石市文化財調査報告書第16集」
- 釜石市 1977 「釜石市誌 通史」



番号	遺構名
1	第1号土坑
2	第2号土坑
3	第3号土坑
4	第4号土坑
5	第5号土坑
6	第6号土坑
7	第7号土坑
8	第8号土坑
9	第9号土坑
10	第10号土坑
11	第11号土坑

12	第12号土坑
13	第13号土坑
14	第14号土坑
15	第15号土坑
16	第16号土坑
17	第1号掘立柱建物跡
18	第2号掘立柱建物跡
19	第3号掘立柱建物跡
20	第4号掘立柱建物跡
21	第1号墓坑
22	第2号墓坑
23	第3号墓坑

24	第4号墓坑
25	第5号墓坑
26	第6号墓坑
27	第7号墓坑
28	第8号墓坑
29	第9号墓坑
30	第10号墓坑
31	第11号墓坑
32	第12号墓坑
33	第13号墓坑
34	第14号墓坑

図6 遺構配置図

Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

1. 野外調査

(1) 調査区の設定

調査区中央部に座表系第10系に基づいた基準点2点を設置し、それを基にグリッドを区画した。基準点1・2の成果値は以下の通りである。

基準点1 X=-82,810.000 Y=81,530.000 H=95.640m

基準点2 X=-82,840.000 Y=81,530.000 H=94.736m

調査区内には上記の基準点のほか、補点を7カ所に設置している。この基準点と補点を結んだ線を延長し、50×50mを1区画として全調査区を区画した。この区画には北西端を起点として、南北方向はⅠ・Ⅱの二区画、東西方向はAからBまでの記号を与え、その組み合わせによってグリッド名とした。(ⅠC区、ⅡB区など)さらに、この大区画を10等分して5×5mに小区画し、北から0～9、西からa～jを付し、大グリッドとあわせてグリッド名を表示した。(ⅠA7c区、ⅡB8d区など)なお、基準点1はⅠB6c区、基準点2はⅡB2c区の各グリッドにあたる。

(2) 粗掘・遺構検出

調査はまず雑物の除去後に、遺構の検出面を確認するため、2m幅のトレンチを調査区全体に6本設定した。その後、遺構検出面までの深さや層序を確認し、重機及び人力によって表土除去を行った。遺構の検出は、その上部のほとんどが削平されていることから表土下のⅡ層及びⅢ層(褐色土)上面で行った。

(3) 遺構名の付け方

検出された遺構は、土坑等に関しては、遺構を種類別にし検出順にそれぞれ、第1号掘立柱建物跡、第2号土坑、第3号墓坑、などのように区別して呼称した。

(4) 精査・実測

土坑・焼土等は基本的には2分法で精査し、必要に応じて4分法を用いた。実測は簡易やり方及び光波を用いて行った。遺構の断・平面図は20分の1を基本とした。遺物の取り上げ方は、大きく埋土と床面の2つに分け、埋土の遺物は4分割したものをQ1～Q4の区画名にして取り上げた。床面の遺物は番号を付し平面図に図化した後に取り上げた。

(5) 写真撮影

野外での写真撮影は、35mm版2台(モノクローム・カラーリバーサル1台ずつ)と6×7cm版モノクロームを使用した。また、メモ的にポラロイドカメラも使用した。調査終了前には、セスナ機による空中写真撮影を行った。

2. 室内整理

(1) 遺物の処理

遺物は、野外調査と並行して雨天時などに水洗まで行い、その後室内で注記・接合・復元の順に進めた。土器類は報告書掲載用のものを選別後、登録作業・実測・拓本・写真撮影・トレースを行い、遺物図版を作成した。石器類は器種毎に登録し、土器類と同様に進めた。

(2) 遺構図面

野外調査で得られた図面類は、標高等の確認・平断面図の点検をし必要に応じて合成した。その後トレス・遺構図版作成の順に進めた。

(3) 図版について

遺物の図版は遺構種別にⅣ章に、遺構外出土のものはⅤ章にまとめて作成・掲載した。縮尺は、土器実測図が3分の1、拓影図は3分の1、石器類及び古銭等は2分の1である。

遺構図版は、遺構の種類毎に掲載した。縮尺は以下の通りである。

掘立柱建物跡 …… 1/100 土坑・墓坑 …… 1/50 柱穴群 …… 1/125

(4) 遺物写真図版について

遺物写真図版の縮尺は、遺物図版と同じ縮尺とすることを原則としたが、一部この縮尺に合わないものがある。

IV 検出された遺構と遺構内出土遺物

1. 土坑と出土遺物

本遺跡では、2ヶ年で16基の土坑が検出された。うち縄文時代の遺構と思われるものが8基、時期不明なものが8基である。土坑の遺構名は、99年度調査区内の北西側に位置するものから順に番号を付し、第1号土坑、第2号土坑 …………… と呼称した。同様に00年度調査区内に位置するものは、第15号土坑から順に遺構名を付した。なお、遺構は全て表土下のⅢ a層上で検出している。

第1号土坑

遺構 (図7、写真図版3)

(位置) I A 5 i 区に位置する。第2号土坑と南西に0.3m、第13号土坑と東北東に9.3mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。礫を多く含む。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) ほぼ円形 (規模) 開口部は139cm×158cm 底面は66cm×88cm (深さ) 67cm

遺物 (図17、写真図版12)

埋土から縄文土器の深鉢が出土している。うち3点を掲載した。1・2にはいずれも地文にLR単節縄文が施されている。3は深鉢の胴部破片で地文はL無節である。

時期 出土遺物から縄文晩期の遺構である可能性が高い。

第2号土坑

遺構 (図7、写真図版3)

(位置) 第1号土坑同様 I A 5 i 区に位置する。第1号土坑と北東に0.3mの距離を置く。

(埋土) 黒褐色土の単層。礫を多く含む。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 楕円形 (規模) 開口部は90cm×118cm 底面は76cm×92cm (深さ) 26cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第3号土坑

遺構 (図7、写真図版3)

(位置) I A 8 g 区に位置する。第4号土坑と西に4mの距離を置く。

(埋土) 2層に分かれ、上位は礫を多く含む黒色土、下位は褐色土で構成される。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 円形 (規模) 開口部は125cm×132cm 底面は91cm×100cm (深さ) 53cm

遺物 (図17、写真図版12)

埋土から土器、石器が出土している。うち4点を掲載した。4は口縁部を三叉文と2、3本の平行沈線で区画した深鉢である。地文はLR単節が施されている。5は浅鉢とした。4と同様に三叉文と平行沈線で区画され地文はLR単節が施されており、口縁部に突起を持つ。6はRL単節のみが地文として施された深鉢である。7は凹石とした。両面とも中央部やや下に大きな凹凸がある。また、片面にだけ枝状の線刻があり、窪んだ部分にまで刻みが入りこんでいる。

時期 出土遺物から縄文時代晩期前葉の遺構と思われる。

第4号土坑

遺構 (図7、写真図版3)

(位置) 第3号土坑同様 I A 8 g 区に位置する。第3号土坑と東に4mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。礫を多く含む。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 楕円形か? (規模) 開口部は103cm前後×122cm 底面は72cm×92cm (深さ) 36cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第5号土坑

遺構 (図7、写真図版4)

(位置) II A 1 g 区に位置する。第6号土坑と北西に第10号土坑と北東にそれぞれ1.3mの距離を置く。

(埋土) 4層に細分される。上位と下位は礫を多く含む黒色土、中位はローム粒を微量含む黒褐色土で構成される。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 隅丸長方形 (規模) 開口部は162cm×189cm 底面は115cm×130cm (深さ) 105cm

遺物 (図17・18、写真図版12)

埋土から土器片が十数点出土している。うち6点を掲載した。8は三叉文と平行沈線によって区画された深鉢である。地文はLR単節が施されている。9は注口土器の口縁部破片で平行沈線を数本有している。10は深鉢の胴部破片で沈線によって区画された部分を磨り消している。11・12は小波状の口縁を有する鉢である。12は口縁部に平行沈線を有する。地文はいずれもLR単節が施されている。13はRL単節、地文のみが施された深鉢である。

時期 出土遺物から縄文時代晩期前葉の遺構と思われる。

第6号土坑

遺構 (図7、写真図版4)

(位置) II A 0 g 区に位置する。第5号土坑と南東に1.3m、第10号土坑と東に4mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。頭大の礫を多く含む。自然堆積の様相を示す。

(平面形) 円形 (規模) 開口部は133cm×143cm 底面は110cm×117cm (深さ) 37cm

遺物 (図18、写真図版13)

縄文土器片が数点出土している。うち4点を掲載した。14は浅鉢の口縁部破片で、三叉文と平行沈線を有する。15はLR単節が施された鉢である。16は底部破片であるため詳細は不明である。17は注口土器の胴部破片で平行沈線を有する。

時期 出土遺物から縄文時代後期末葉から晩期初頭の遺構と思われる。

第7号土坑

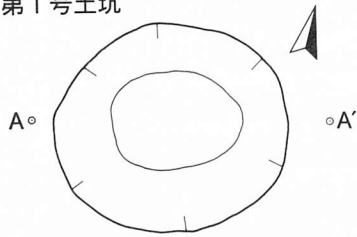
遺構 (図7、写真図版4)

(位置) I A 9 h 区に位置する。第8号土坑と西北西に1.2mの距離を置く。

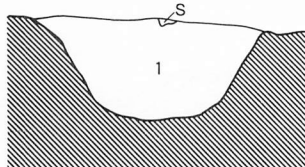
(埋土) 黒色土の単層。他遺構よりも黒色土の割合が多い。礫を多く含む。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 円形 (規模) 開口部は94cm×99cm 底面は62cm×73cm (深さ) 28cm

第1号土坑

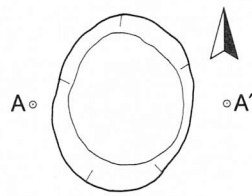


L = 97.000m

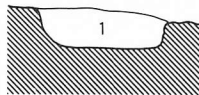


第1号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

第2号土坑

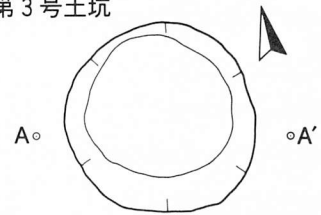


L = 96.900m

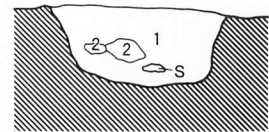


第2号土坑
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 礫を全体に含む。

第3号土坑

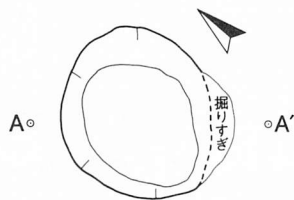


L = 96.800m

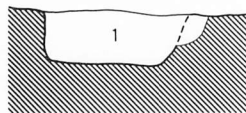


第3号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。
2. 10YR4/4 褐色 サンド 褐色土ブロック。

第4号土坑

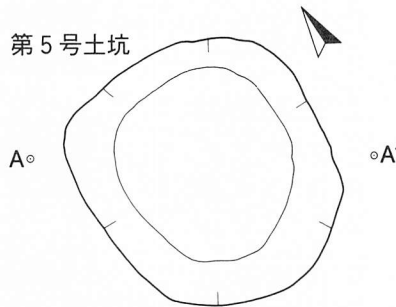


L = 96.700m

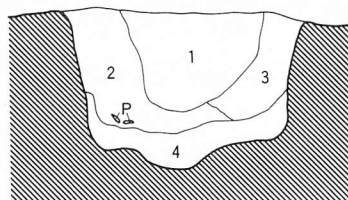


第4号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

第5号土坑

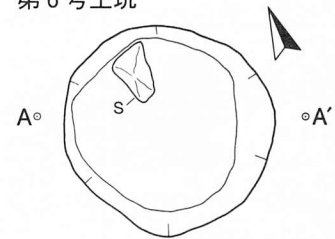


L = 97.000m

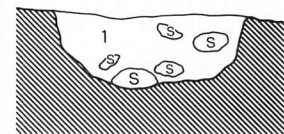


第5号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト ローム粒をわずかに含む。
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト ロームブロックをわずかに含む。
4. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を多く含む。

第6号土坑

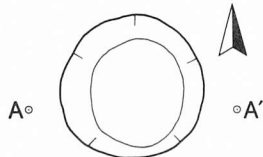


L = 97.000m

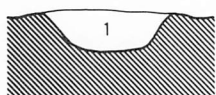


第6号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

第7号土坑

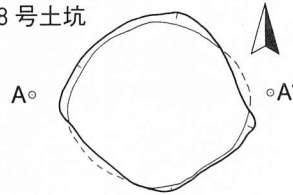


L = 96.900m

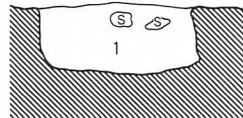


第7号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

第8号土坑



L = 96.900m



第8号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

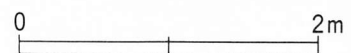


図7 土坑 (1)

遺物 (図18、写真図版13)

縄文土器片が十数点出土している。18～21は地文にLR単節を施された深鉢である。22は壺の口縁部の破片で平行沈線の一部と思われる部分が残存している。23は壺の胴部破片である。平行沈線と磨り消し縄文によって文様が展開している。24は鉢の口縁部破片である。三叉文と平行沈線によって区画されている。25は注口土器の口縁部破片である。平行沈線と三叉文の一部と思われる文様を有する。

時期 出土遺物から縄文時代晩期前葉の遺構と思われる。

第8号土坑

遺構 (図7、写真図版4)

(位置) 第7号土坑同様IA9h区に位置する。第7号土坑と東北東に1.2mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。礫を多く含む。自然堆積の様相を示す。

(平面形) 隅丸方形(規模) 開口部は107cm×130cm 底面は108cm×123cm(深さ) 46cm

遺物 (図18、写真図版13)

土器破片1点と石器1点掲載した。26は口縁部に三叉文と平行沈線のほかB字突起を有する鉢である。27は両面とも中央部に使用痕が見られる凹石である。

時期 出土遺物から縄文時代晩期の遺構と思われる。

第9号土坑

遺構 (図8、写真図版5)

(位置) IIA0g区に位置する。第7・8・10号に三方を囲まれる位置に存在する。それぞれ2.7m、1.8m、0.3mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。礫を多く含む。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 不整円形(規模) 開口部は99cm×109cm 底面は59cm×85cm(深さ) 22cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第10号土坑

遺構 (図8、写真図版5)

(位置) IIA0g区に位置する。第5号土坑とは南西に1.3m、第9号土坑とは北東に0.3mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 不整円形(規模) 開口部は126cm×143cm 底面は73cm×91cm(深さ) 47cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第11号土坑

遺構 (図8、写真図版5)

(位置) IIA1h区に位置する。調査区西側の土坑群の中で最も南に位置している。第10号土坑と北東に2.4mの距離を置く。

第9号土坑

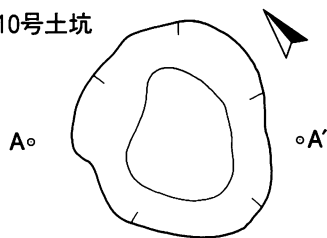


A1—L=96.900m—A'

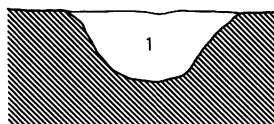


第9号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

第10号土坑

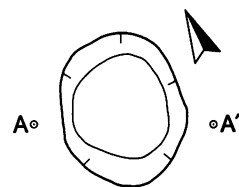


A1—L=96.900m—A'



第10号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 礫を全体に含む。

第11号土坑

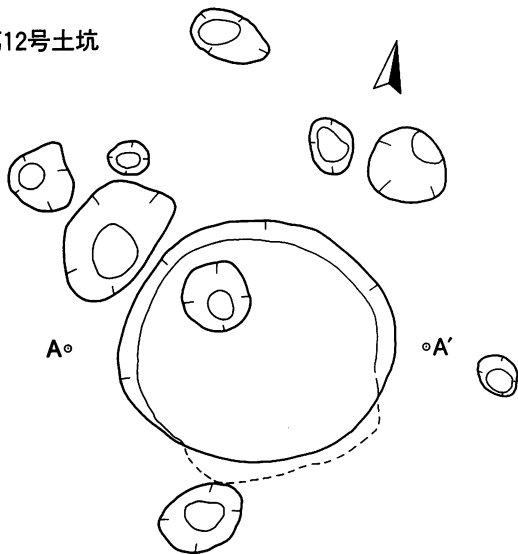


A1—L=96.600m—A'

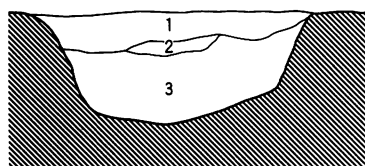


第11号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 頭大の礫を含む。

第12号土坑

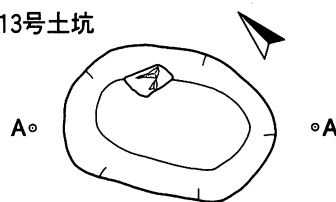


A1—L=95.000m—A'

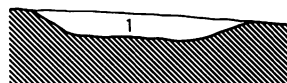


第12号土坑
1. 10YR1.7/1 黒色 シルト。
2. 5YR3/6 暗赤褐色 シルト 焼土ブロック。
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 径10cm~30cmの礫を全体に含む。

第13号土坑



A1—L=96.200m—A'

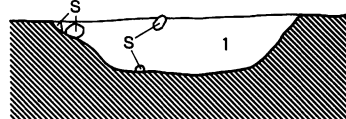


第13号土坑
1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 混入物は特に見られない。

第14号土坑



A1—L=94.100m—A'



第14号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト 径10cm~20cmの礫をまばらに含む。

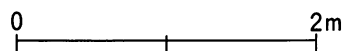


図8 土坑(2)

(埋土) 黒色土の単層。頭大の礫を含む。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) 楕円形 (規模) 開口部は83cm×104cm 底面は63cm×71cm (深さ) 24cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第12号土坑

遺構 (図8、写真図版5)

(位置) II B 6 b 区から検出した。第1号掘立柱建物跡の柱穴群の中央に位置する。同遺構に伴うかどうかは不明である。

(埋土) 3層に分かれ、上位は黒色土、中位は暗赤褐色の焼土、下位は半頭大～頭大の礫を含む黒褐色土で構成される。自然堆積の様相を呈する。

(平面形) ほぼ円形 (規模) 開口部は161cm×189cm 底面は159cm×164cm (深さ) 74cm

遺物 (図19、写真図版13・14)

埋土から縄文土器が十数点出土している。うち11点を掲載した。28～34は後期初頭に位置づけられる深鉢土器である。28～32・34は波状口縁を呈する口縁部破片である。28・29には刺突列が見られる。34はR L単節が地文として施されている。35・36は後期末に位置づけられる深鉢土器である。35は波状口縁を呈し、地文はL無節、36はR L単節が地文として施されている。37はL R単節が地文として施され、底部には木葉痕が見られる。38は無文の深鉢土器と思われるが、剝落部が有り詳細は不明である。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属する遺構と思われる。

第13号土坑

遺構 (図8、写真図版6)

(位置) I B 4 b 区に位置する。第1号土坑と西南西に9.3mの距離を置く。

(埋土) 黒色土の単層。自然堆積の様相を示す。

(平面形) 楕円形 (規模) 開口部は98cm×142cm 底面は55cm×104cm (深さ) 16cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第14号土坑

遺構 (図8、写真図版6)

(位置) I B 6 h 区に位置する。調査区内で最も東に位置する。

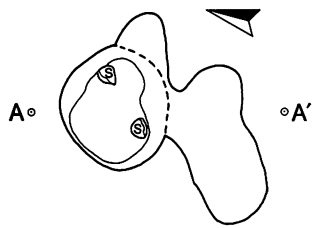
(埋土) 黒色土の単層。自然堆積の様相を示す。

(平面形) やや歪みのある楕円形 (規模) 開口部は99cm×189cm 底面は45cm×116cm (深さ) 40cm

遺物 出土しなかった。

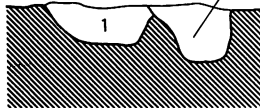
時期 不明である。

第15号土坑



A— L=94.700m —A'

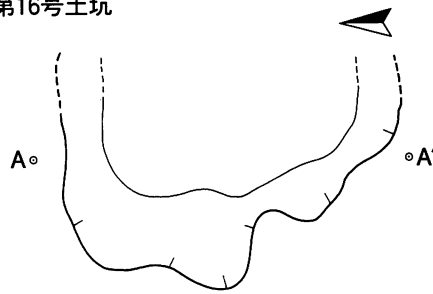
第2号掘立柱建物跡
P埋土



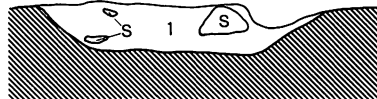
第15号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト
径5~10mm程度の小礫をわずかに含む。
黄褐色土粒をごくわずかに含む。

第16号土坑



A— L=94.600m —A'



第16号土坑

1. 10YR2/1 黒色 シルト 径20mm~頭大の礫を
まばらに含む。植根まばら。

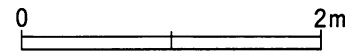


図9 土坑(3)

第15号土坑

遺構 (図9、写真図版6)

(位置) II B 7 c 区に位置する。第16号土坑と北東に2mの距離を置く。

(検出状況) II層上をクリーニング中に黒褐色土のプランを検出した。第2号掘立柱建物跡を構成する柱穴群と重複し切られる。本遺構の方が古い。埋土の状況から第1号掘立柱建物跡に伴う可能性がある。

(埋土) 黒褐色土の単層。自然堆積の様相を示す。

(平面形) 楕円形であったと思われる。(規模) 開口部は73cm前後×83cm 底面は47cm×70cm

(深さ) 24cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第16号土坑

遺構 (図9、写真図版6)

(位置) II B 6 d 区に位置する。第15号土坑と南西に2mの距離を置く。

(検出状況) II層上をクリーニング中に黒色土のプランを検出した。なお、東側は約1/2は削平されている。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土。

(平面形) 不明である。(規模) 開口部は224cm×(不明) 底面は168cm×(不明) (深さ) 28cm

遺物 (図19・20、写真図版14)

縄文土器6個体分の土器片が埋土から出土している。うち3点を掲載した。39は深鉢の胴部破片で沈線区画の磨り消し縄文によって文様が施されている。40は小波状の口縁を呈し、RL単節が地文として施されている。41は波状口縁を呈し、沈線区画の磨り消し縄文により文様が展開し、地文はRL単節が施されている。

時期 縄文時代晩期に属する遺構と思われる。

2. 掘立柱建物跡と出土遺物・柱穴群

I B 1 e 区からII B 区までの調査区中央から南端にかけて柱穴状小土坑が多数検出された。うち、配置に規則性があると思われるもの4棟を掘立柱建物跡として記載した。しかし、2ヶ年にわたって検出されたものがあることなどから、掘立柱建物跡となりえるかどうか疑問が残る。

なお、柱穴群については、規則的な配置をなさないと思われるものでも、掘立柱建物跡の周辺にある柱穴については同遺構の図版内に示している。その他の柱穴は、位置と規模のみを後に示している。埋土は近・現代のものと思われる柱穴は暗褐色土主体。時期が不明なものは黒色土・黒褐色土が主体となっている。

第1号掘立柱建物跡

遺構 (図10)

(位置・検出状況) 調査区南側II B 6 b 区に位置する。第12号土坑が柱穴間に存する。Ⅲ層上からの検出である。本遺構は1999年度調査区と2000年度調査区にまたがっているため、柱穴埋土の比較ができなかった。配置のみを根拠として掘立柱建物跡として記載した。

(埋土) 褐色土粒を含む黒褐色土。周辺土坑と色調が類似している。

(規模・平面形) 2×3の6本柱と想定した。柱穴間の距離は長軸3.8m～4.2m、短軸1.6m～2.0mである。

(軸線方向) 長軸方向はN-40°-Wである。

遺物 縄文土器の細片が出土している。

時期 縄文時代の遺構と思われる。

第2号掘立柱建物跡

遺構 (図11、写真図版7)

(位置・検出状況) 調査区南側II B 7 c 区に位置する。第15号土坑が柱穴間に存在し、第16号土坑とは北東に3m、第1号掘立柱建物跡とは北西に5mの距離を置く。Ⅲ層上からの検出である。

(埋土) 褐色土粒を含む黒褐色土。礫をまばらに含む。

(規模・平面形) 2×3の6本柱と想定した。柱穴間の距離は長軸4.2m～4.5m、短軸2.9m～3.2mである。

(軸線方向) 長軸方向はN-75°-Wである。

遺物 (図20、写真図版14)

2基の柱穴埋土から縄文土器片が出土している。うち2点を掲載した。42は深鉢の胴部破片でボタン状の貼り付け文を持ち、地文はRL単節が施されている。43は山形突起を持ち、沈線により区画されている。地文はRL単節が施されている。

時期 縄文時代後期前葉に属する遺構の可能性はある。

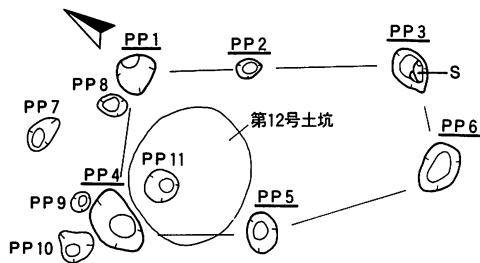
第3号掘立柱建物跡

遺構 (図11、写真図版7)

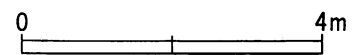
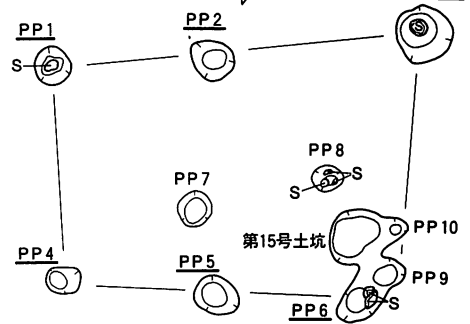
(位置・検出状況) II B 3 e 区～II B 4 f 区に位置する。表土除去後のⅢ層中に検出した。

(埋土) 褐色土・小礫を含む暗褐色土主体である。

ⅡC6b
第1号掘立柱建物跡（縄文）



第2号掘立柱建物跡（縄文？）
ⅡB7d



第1号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径 cm	52×51	32×24	63×43	77×55	55×54	58×51
深さ cm	3 6	5 1	5 2	4 1	4 5	5 2

No.	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11
径 cm	45×30	33×28	27×26	49×48	46×42
深さ cm	4 9	3 7	3 0	3 9	2 1

第2号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	52×48	58×54	75×74	47×37	58×54
深さ cm	5 1	4 8	3 3	5 1	4 1

No.	PP6	PP7	PP8	PP9	PP10
径 cm	54×44	48×47	40×32	50×38	32×25
深さ cm	4 8	3 5	3 1	4 1	3 2

図10 第1号・第2号掘立柱建物跡

（規模）桁行3間（7.7m～7.9m）、梁行2間（5.8m前後）の建物である。なお、本遺構を構成する柱穴のうち、東側の1基は攪乱のため削平されている可能性がある。

（軸線方向）長軸方向はN-15°-Wである。

遺物（図20、写真図版15）

1基の柱穴埋土から古銭が2枚（58・59）出土している。いずれも古寛永通宝である。

時期 近世以降の遺構の可能性が高い。

第4号掘立柱建物跡

遺構（図12）

（位置・検出状況）ⅡB3g区～ⅡB3h区に位置する。表土除去後のⅢ層中から検出した。

（埋土）褐色土、小礫を含む暗褐色土主体である。

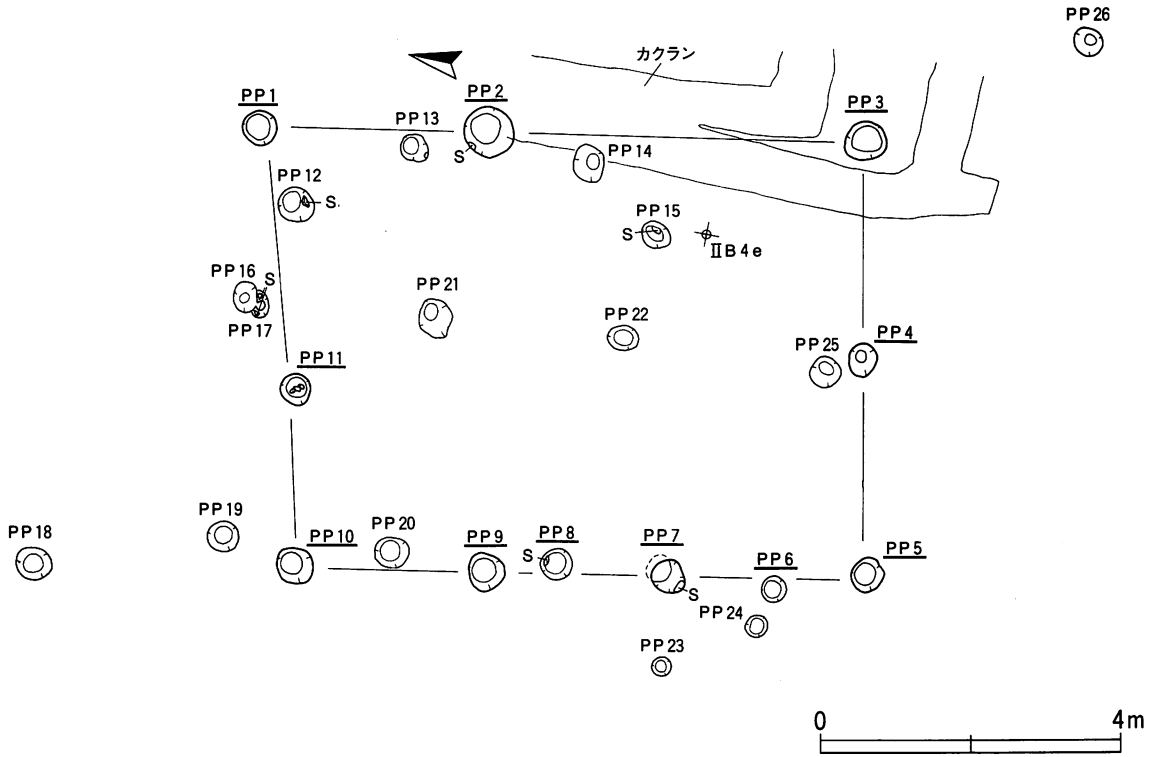
（規模）桁行3間（5.5m）、梁行1間（3.8m）の建物である。

（軸線方向）長軸方向はN-80°-Eである。

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第3号掘立柱建物跡（近世）及び周辺柱穴群



第3号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	46×45	69×66	53×47	43×36	43×42
深さ cm	3 1	3 2	4 1	2 7	4 6

No.	PP16	PP17	PP18	PP19	PP20
径 cm	40×40	35前後	51×41	42×41	49×42
深さ cm	2 5	2 3	3 4	2 9	3 5

No.	PP6	PP7	PP8	PP9	PP10
径 cm	34×31	50×42	42×41	51×48	54×48
深さ cm	2 7	4 9	4 0	4 8	4 4

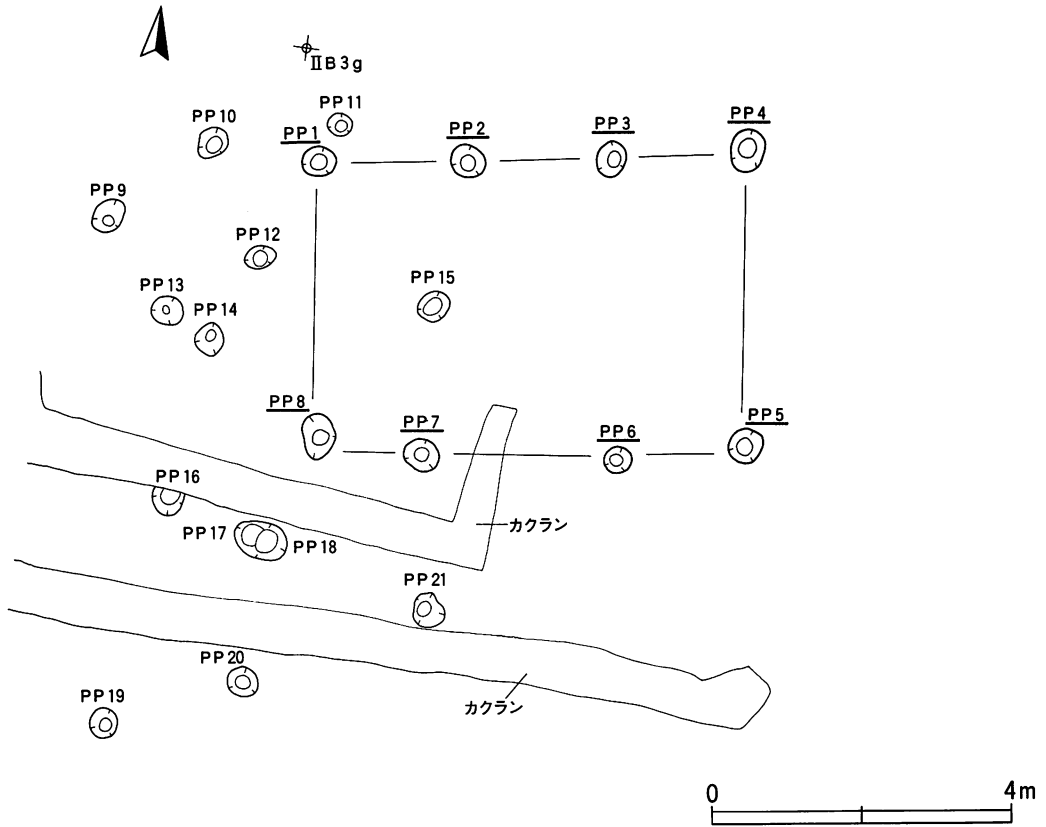
No.	PP21	PP22	PP23	PP24	PP25
径 cm	48×46	40×34	27×25	30×30	43×40
深さ cm	3 5	3 5	2 2	2 5	3 2

No.	PP11	PP12	PP13	PP14	PP15
径 cm	40×39	52×46	43×37	49×40	44×34
深さ cm	2 5	5 3	3 6	3 7	3 8

No.	PP26
径 cm	40×37
深さ cm	3 2

図11 第3号掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡(近世?)及び周辺柱穴群



第4号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	49×42	48×43	47×39	61×49	49×48
深さ cm	3 5	2 9	3 6	4 2	5 3

No.	PP16	PP17	PP18	PP19	PP20
径 cm	43前後	35前後	40前後	38×34	38×36
深さ cm	4 2	3 4	5 1	4 0	3 6

No.	PP6	PP7	PP8	PP9	PP10
径 cm	39×36	48×46	60×44	47×41	42×37
深さ cm	4 5	3 8	3 6	3 6	3 1

No.	PP21
径 cm	44×39
深さ cm	4 6

No.	PP11	PP12	PP13	PP14	PP15
径 cm	33×32	43×32	41×40	47×39	44×39
深さ cm	3 7	3 3	2 8	5 3	3 4

図12 第4号掘立柱建物跡

柱穴群 (1)

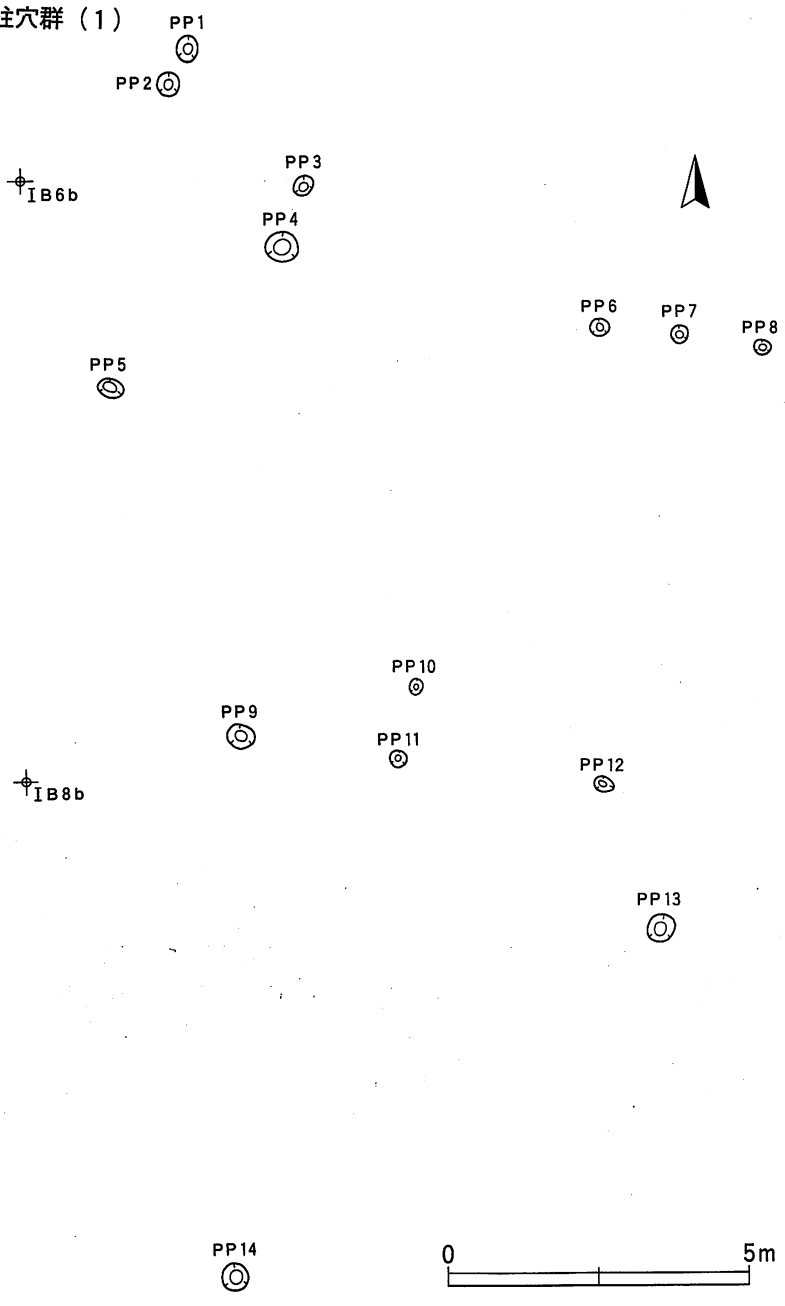
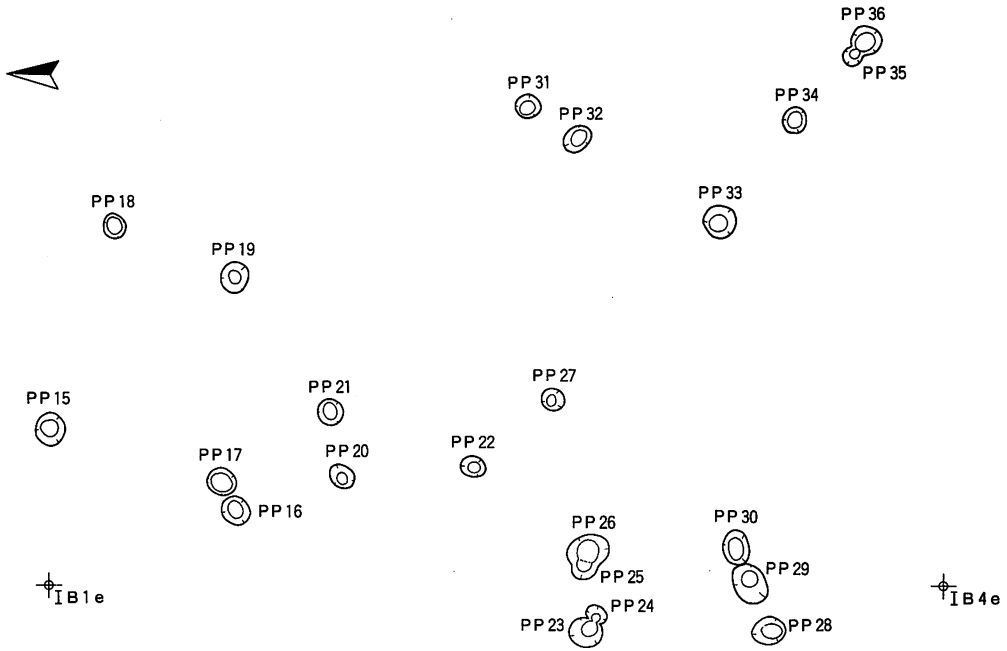


图13 柱穴群 (1)

柱穴群 (2)



柱穴群 (3)

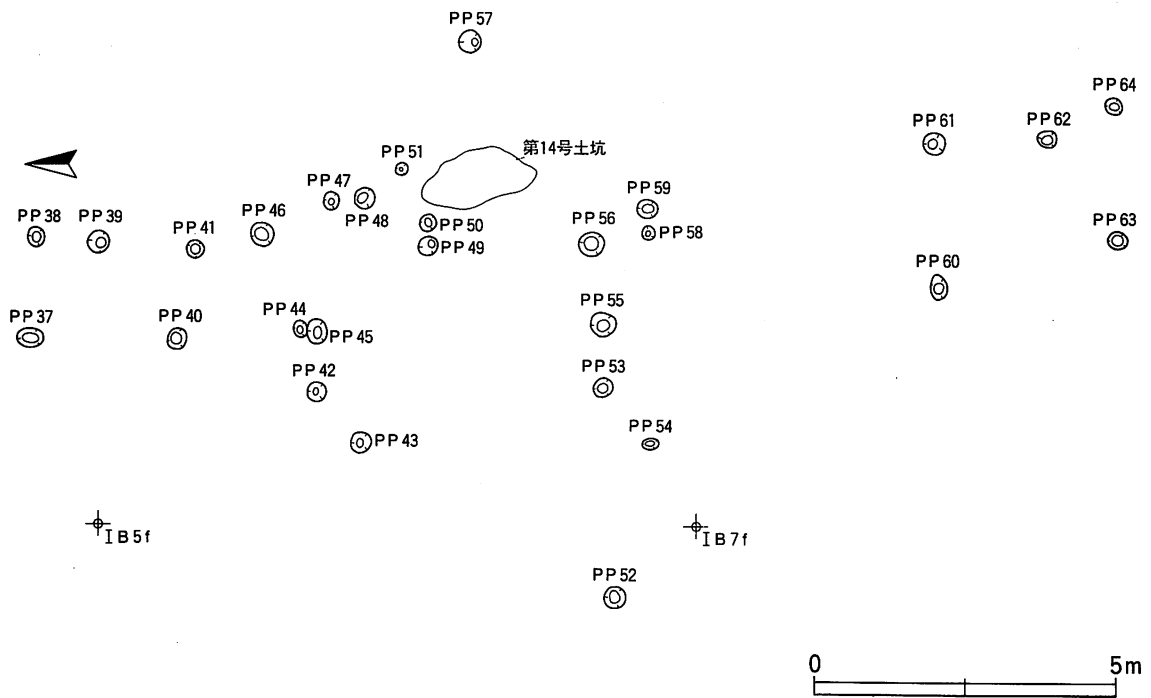


图14 柱穴群 (2) · (3)

柱穴群 柱穴計測表

PP No.	径 (cm)	深 さ (cm)
1	43×38	28
2	40×38	29
3	32×31	30
4	58×52	23
5	45×31	41
6	32×31	32
7	30×28	25
8	30×25	25
9	47×43	39
10	28×20	39
11	29×28	36
12	33×27	27
13	48×42	36
14	48×45	42
15	57×51	35
16	52×45	30
17	50×45	42
18	40×38	20
19	52×47	31
20	40×38	55
21	45×44	48
22	38×35	32
23	49×49	40
24	34×28	32
25	30 _{cm} 前後	30
26	67×51	35
27	39×37	36
28	56×43	34
29	61×55	42
30	57×46	34
31	42×42	40
32	48×38	44

PP No.	径 (cm)	深 さ (cm)
33	52×51	40
34	41×41	42
35	32×31	32
36	49×43	35
37	48×33	30
38	37×36	22
39	38×35	27
40	28×28	26
41	29×28	28
42	35×33	25
43	34×33	28
44	25×24	30
45	40×32	36
46	38×35	33
47	28×24	30
48	34×34	34
49	34×28	32
50	28×26	30
51	24×18	31
52	38×36	36
53	35×28	20
54	28×18	28
55	32×30	36
56	42×38	29
57	35×32	30
58	22×19	30
59	32×32	28
60	42×24	28
61	43×35	42
62	35×32	33
63	31×30	27
64	26×25	25

3. 墓坑と出土遺物

調査区の南東隅から14基の墓坑を検出している。全ての遺構から人骨が出土している。出土遺物からそのほとんどが近世の遺構と思われる。遺物が出土しない墓坑もあるが、重複していないことや埋土の状況から遺構の存在した時期幅は狭いと思われる。なお、遺構は全てⅢ a層上で検出されている。

第1号墓坑

遺構（図15、写真図版8）

（位置）Ⅱ B 7 d区に位置する。第2号墓坑と上部の一部が重複している。新旧関係は不明。第3号墓坑と北東に0.2mの距離を置く。

（埋土）小礫を全体に含む黒褐色土の単層である。人為的堆積の様相を示す。

（平面形）やや歪みのある隅丸長方形（規模）開口部は129cm×160cm 底面は119cm×134cm

（深さ）54cm

遺物（図20、写真図版15）

古銭が1枚と煙官の雁首部が1点出土している。古銭のみ掲載した。44は寛永通宝の可能性があるが摩滅のため詳細は不明である。

時期 出土遺物から近世以降の遺構である可能性がある。

第2号墓坑

遺構（図15、写真図版8）

（位置）Ⅱ B 7 d区に位置する。第1号墓坑と上部の一部が重複している。新旧関係は不明。第3号墓坑と北西に0.4mの距離を置く。

（埋土）小礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

（平面形）やや歪みのある楕円形（規模）開口部は107cm×125cm 底面は75cm×82cm

（深さ）26cm

遺物（図20、写真図版15）

埋土下位から陶器が1点出土した。45は陶器碗で産地は大堀相馬である。鉄絵が絵付けされている。

時期 出土遺物から18世紀以降の遺構と思われる。

第3号墓坑

遺構（図15、写真図版8）

（位置）Ⅱ B 7 d区に位置する。第1号墓坑とは南西に0.2m、第2号墓坑とは南東に0.4mの距離を置く。

（埋土）小礫を全体に含む黒色土。人為的堆積の様相を示す。

（平面形）円形（規模）開口部は159cm×162cm 底面は96cm×98cm（深さ）78cm

遺物（図20、写真図版15）

埋土から古銭6枚と角釘2本出土している。古銭のみ掲載した。46～51は寛永通宝である。47・48は摩滅のため不明だが、46・50・51は古寛永、49は新寛永通宝である。

時期 出土遺物から17世紀以降の遺構と思われる。

第4号墓坑

遺構 (図15、写真図版8)

(位置) II B 7 e 区に位置する。第2号墓坑と西に0.8mの距離を置く。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) ほぼ円形(規模) 開口部は94cm×103cm 底面は75cm×79cm (深さ) 26cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明だが近世の遺構か?

第5号墓坑

遺構 (図15、写真図版9)

(位置) II B 5 g 区、調査区東側の墓坑群の北西端に位置する。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 隅丸方形(規模) 開口部は140cm×152cm 底面は101cm×102cm (深さ) 85cm

遺物 角釘が数本出土しているが残存状況が良くないため図版・写真ともに割愛した。

時期 不明である。

第6号墓坑

遺構 (図15、写真図版9)

(位置) II B 5 g 区、調査区東側の墓坑群の北東端に位置する。第5号墓坑と西に0.2mの距離を置く。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 隅丸台形(規模) 開口部は98cm×151cm 底面は82cm×142cm (深さ) 34cm

遺物 煙管が1点出土している。

時期 出土遺物から近世の遺構である可能性が高い。

第7号墓坑

遺構 (図15、写真図版9)

(位置) II B 6 g 区に位置する。第6号墓坑と北に0.3mの距離を置く。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 隅丸長方形(規模) 開口部は87cm×118cm 底面は67cm×96cm (深さ) 28cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明だが近世の遺構か?

第8号墓坑

遺構 (図15、写真図版9)

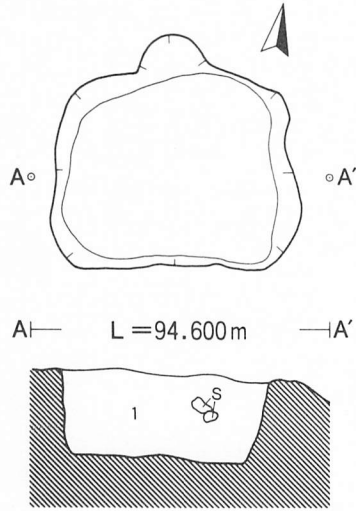
(位置) II B 6 g 区に位置する。第9号墓坑に南端が隣接する。

(埋土) 小礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 楕円形(規模) 開口部は100cm×112cm 底面は61cm×92cm (深さ) 21cm

遺物 (図20、写真図版15)

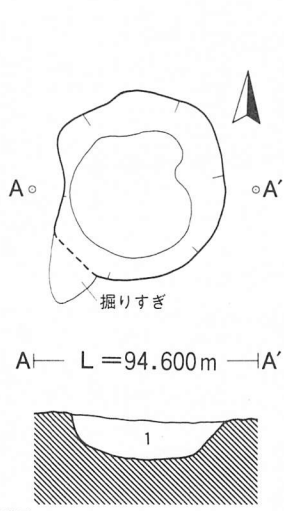
第1号墓坑



第1号墓坑

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト
 径5mm~20mm程度の小礫を全体に含む。
 黄褐色土粒をごくわずか含む。

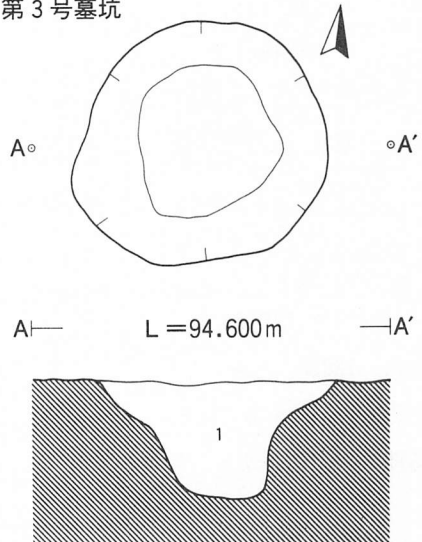
第2号墓坑



第2号墓坑

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト
 径10mm~20mmの小礫をまばらに含む。植根を含む。
 黄褐色土粒をごく微量含む。

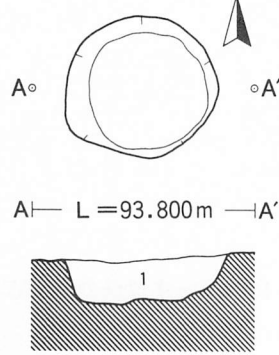
第3号墓坑



第3号墓坑

1. 10YR2/1 黒色 シルト 径10mm~30mmの礫を
 まばらに含む。

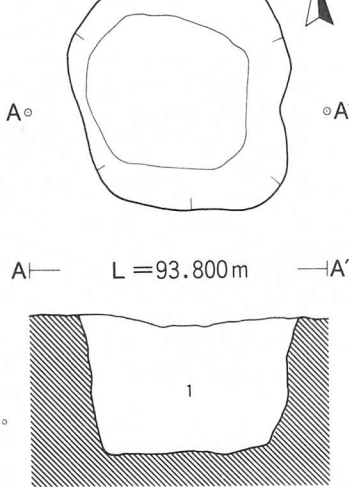
第4号墓坑



第4号墓坑

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 礫・植根を多く含む。

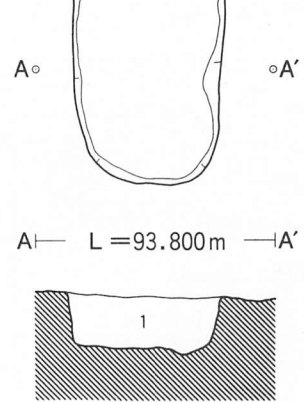
第5号墓坑



第5号墓坑

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト 径5mm程度~半頭大の礫を
 全体に含む。

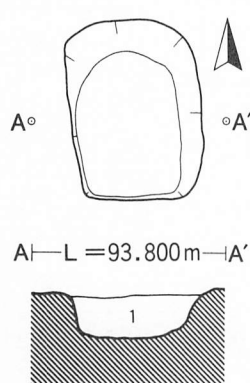
第6号墓坑



第6号墓坑

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土粒をまばらに
 含む。径5mm~半頭大の礫を全体に含む。

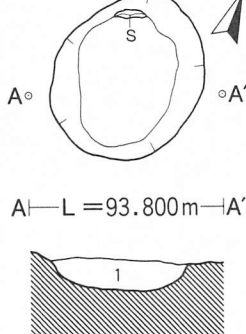
第7号墓坑



第7号墓坑

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土粒を
 まばらに含む。
 径5mm~半頭大の礫を全体に含む。

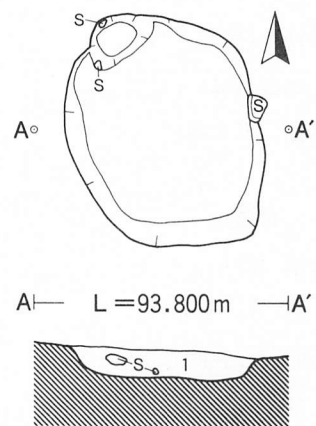
第8号墓坑



第8号墓坑

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土粒をまばらに含む。
 上部に径10~30mm程度の小礫をまばらに含む。

第9号墓坑



第9号墓坑

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土粒
 をまばらに含む。
 径5mm~半頭大の礫を全体に含む。

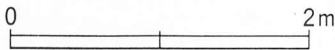


図15 墓坑 (1)

古銭が2枚(52・53)出土している。いずれも新寛永通宝である。
時期 出土遺物から17世紀以降の遺構と思われる。

第9号墓坑

遺構 (図15、写真図版9)

(位置) II B 6 g 区に位置する。第8号墓坑に北端が接する。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 楕円形(規模) 開口部は125cm×158cm 底面は109cm×119cm (深さ) 17cm

遺物 (図20、写真図版15)

北宋銭(54)が1枚出土している。

時期 出土遺物から11世紀以降の遺構と思われる。

第10号墓坑

遺構 (図16、写真図版10)

(位置) II B 6 g 区、調査区東側の墓坑群の南東端に位置する。

(埋土) 小礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) ほぼ円形(規模) 開口部は128cm×137cm 底面は88cm×98cm (深さ) 46cm

遺物 出土しなかった。

時期 不明である。

第11号墓坑

遺構 (図16、写真図版10)

(位置) II B 6 g 区に位置する。第12号墓坑と東側約1/4が重複している。埋土の状況から本遺構の方が古いと判断したが、同時期に作られた可能性もある。

(埋土) 礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 楕円形であったと思われる。(規模) 開口部は136cm×195cm 底面は106cm×152cm
(深さ) 56cm

遺物 (図20、写真図版15)

和鏡(55)が1点と角釘2点出土している。

時期 出土遺物から近世の遺構である可能性が高い。

第12号墓坑

遺構 (図16、写真図版10)

(位置) II B 6 g 区に位置する。第11号墓坑と西側の一部が重複している。埋土の状況から本遺構の方が新しいと判断したが、同時期に作られた可能性もある。

(埋土) 小礫を全体に含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 円形であったと思われる。(規模) 開口部は140cm前後×141cm 底面は98cm×103cm
(深さ) 56cm

遺物 煙官が1点出土している。図版・写真等は割愛した。

時期 出土遺物から近世以降の遺構である可能性が高い。

第13号墓坑

遺構 (図16、写真図版11)

(位置) II B 7 g 区に位置する。第12号墓坑と北西側が、第14号墓坑と南西側が隣接している。

(埋土) 小礫を含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 隅丸台形

(規模) 開口部は95cm×174cm

底面は69cm×146cm

(深さ) 27cm

遺物 (図20、写真図版15)

陶器1点と煙官が1点出土している。陶器のみ掲載した。57は大堀相馬産の小碗である。

時期 出土遺物から18世紀以降の遺構である可能性が高い。

第14号墓坑

遺構 (図16、写真図版11)

(位置) II B 7 g 区、調査区東側の墓坑群の最南端に位置する。第13号墓坑と北西側が隣接している。

(埋土) 礫を含む黒褐色土の単層。人為的堆積の様相を示す。

(平面形) 隅丸長方形

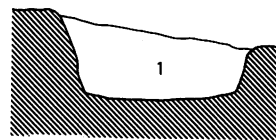
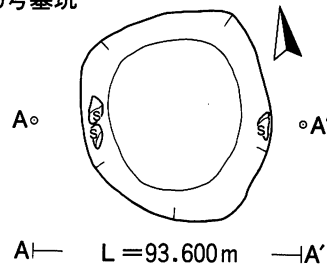
(規模) 開口部は108cm×152cm

底面は69cm×107cm (深さ) 18cm

遺物 出土しなかった。

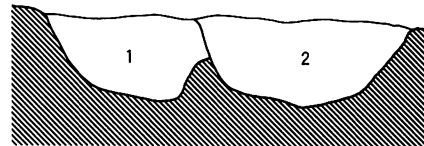
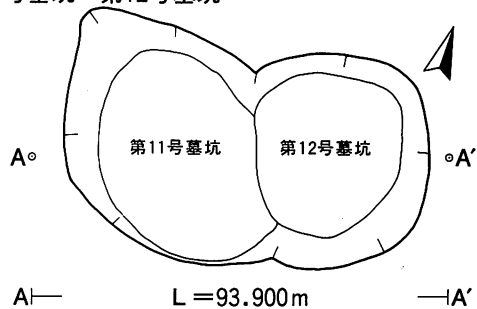
時期 不明だが近世以降の遺構か？

第10号墓坑



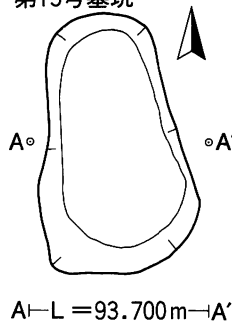
第10号墓坑
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土粒をまばらに含む。
径10mm~30mm程度の礫を全体に含む。

第11号墓坑・第12号墓坑



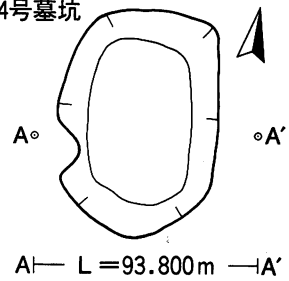
第11号墓坑
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト 黄褐色土粒をまばらに含む。
径10mm~半頭大の礫を全体に含む。
第12号墓坑
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土粒をまばらに含む。
径10mm~30mm程度の礫を全体に含む。

第13号墓坑



第13号墓坑
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 黄褐色土粒をまばらに含む。
径10mm~30mm程度の礫を全体に含む。

第14号墓坑



第14号墓坑
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 黄褐色土粒及び半頭大の礫を含む。

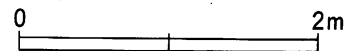


図16 墓坑 (2)

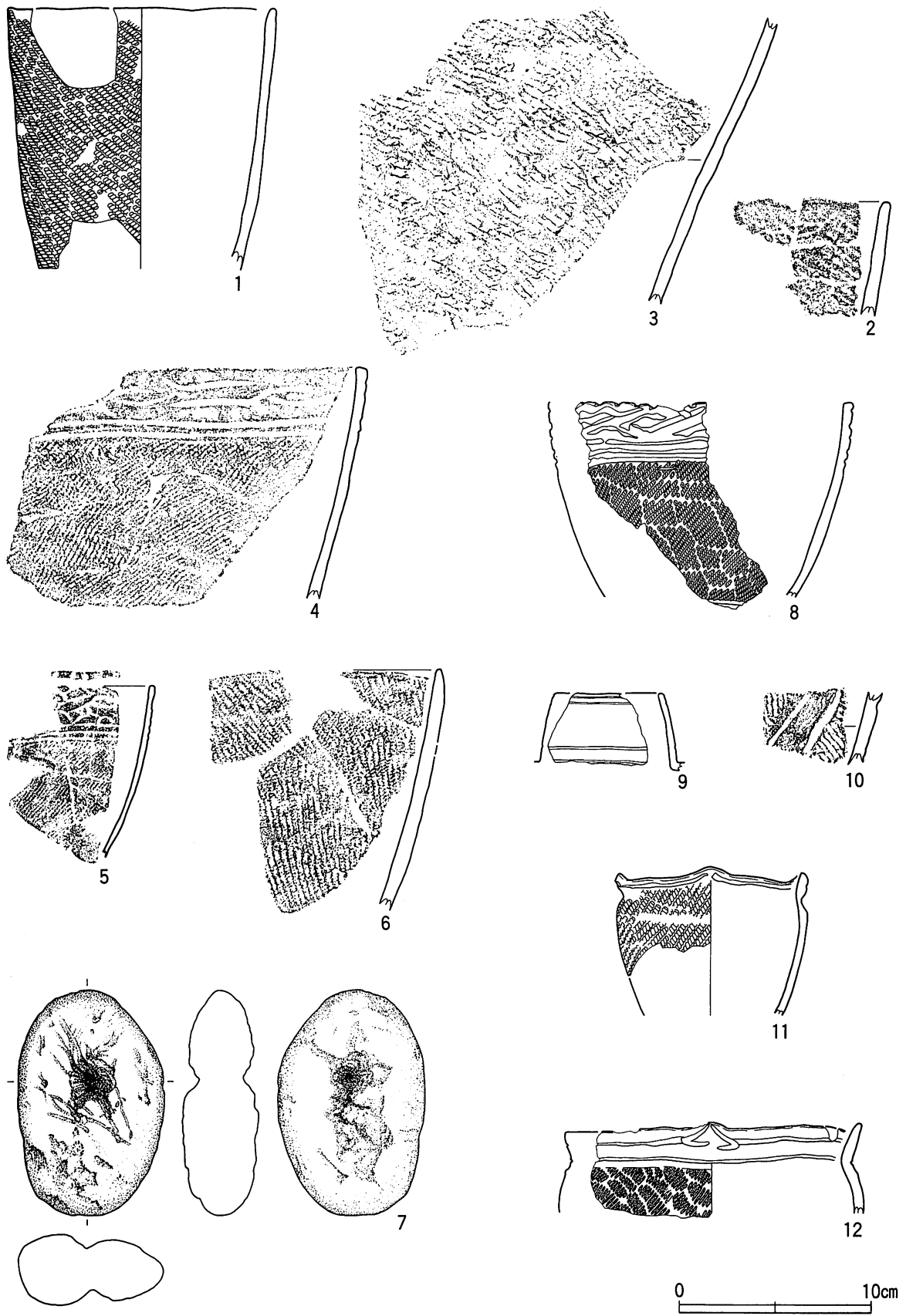


图17 遺構内出土遺物 (1)

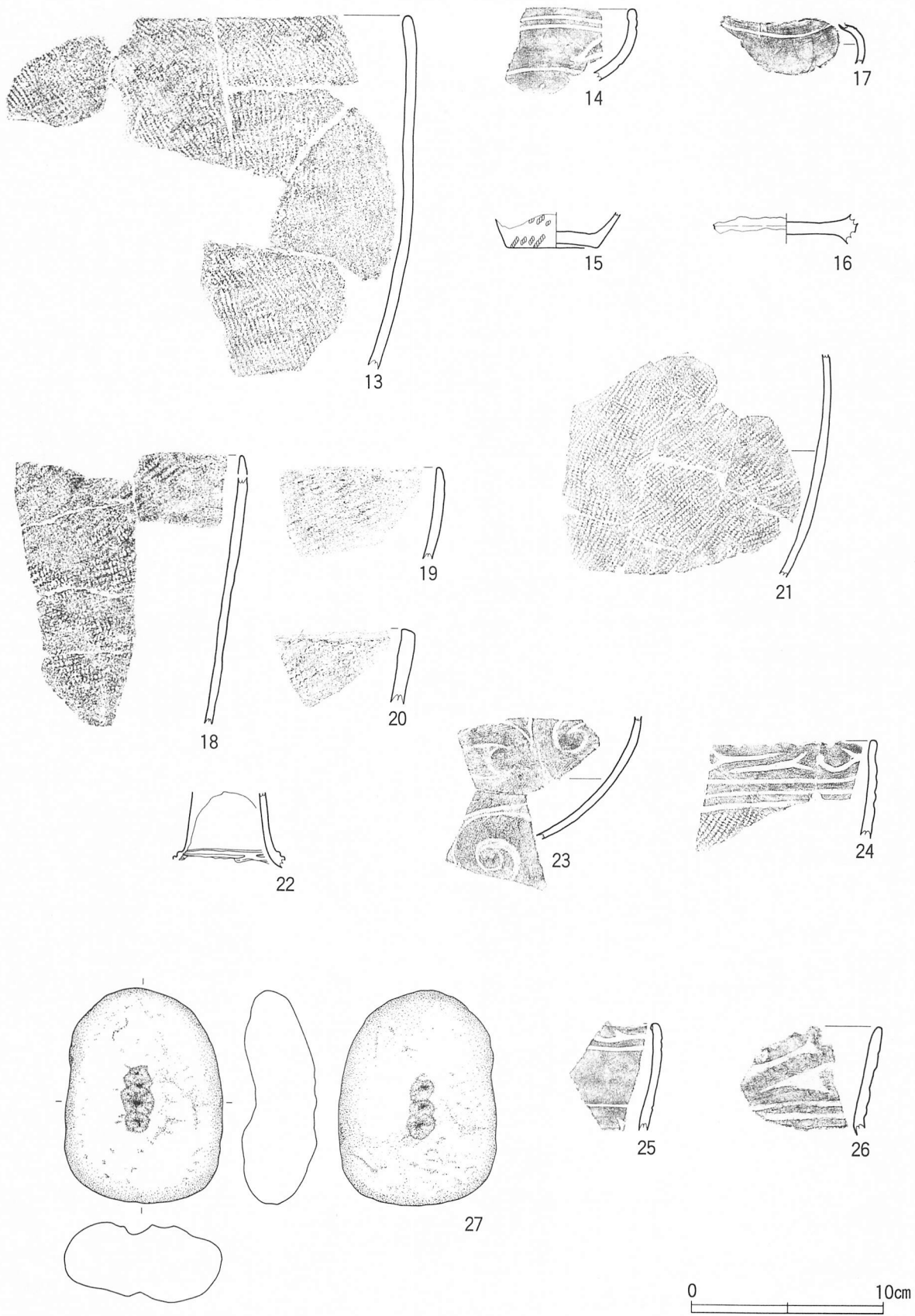


图18 遺構内出土遺物 (2)

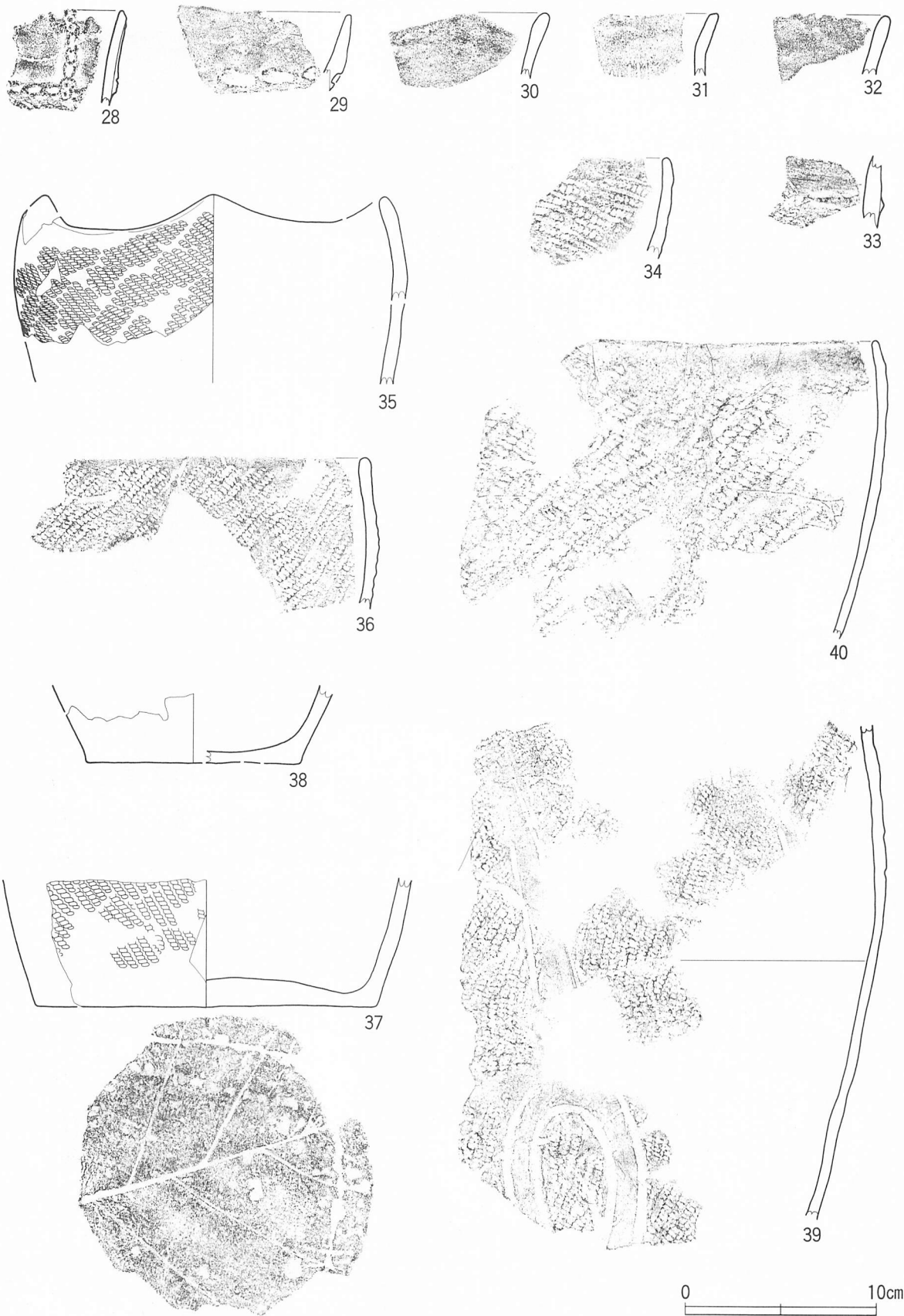


图19 遺構内出土遺物 (3)

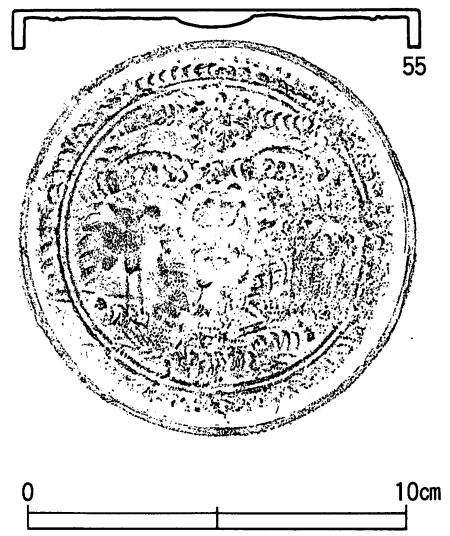
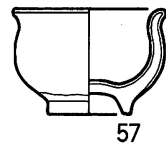
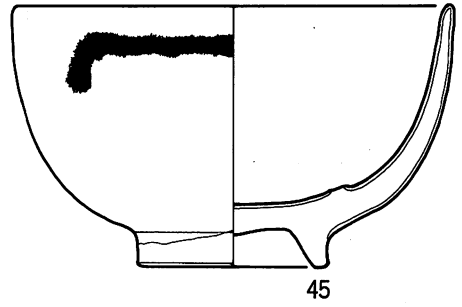
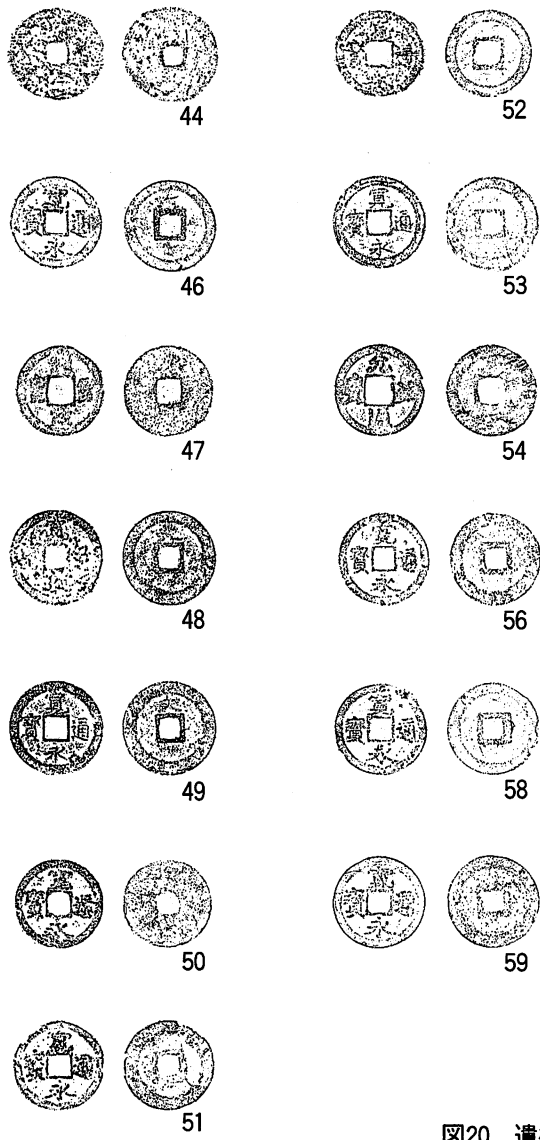
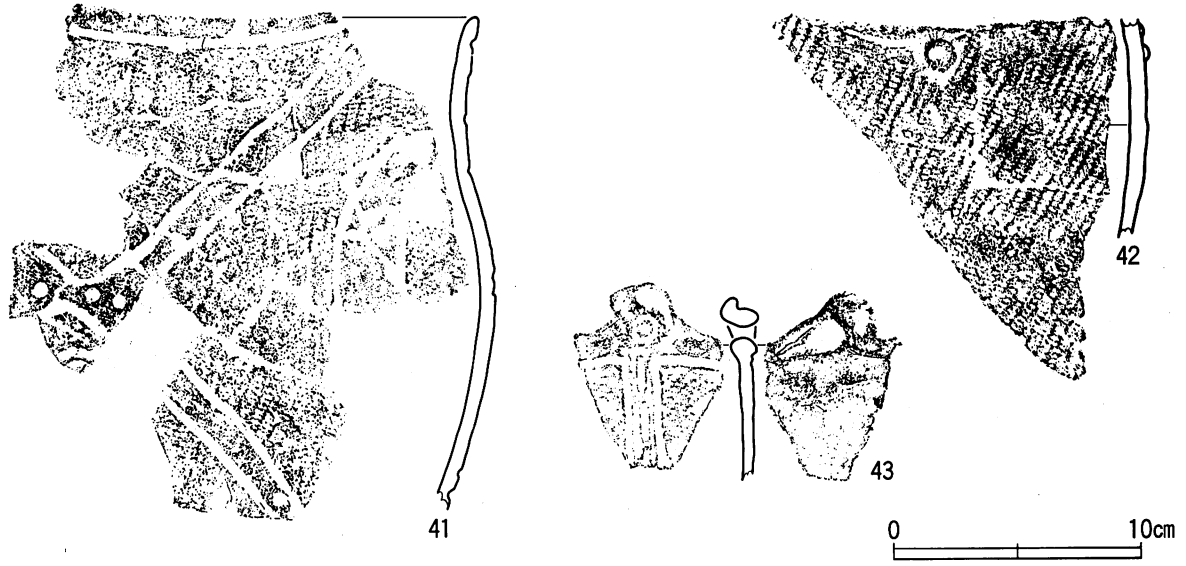


图20 遺構内出土遺物 (4)

V 遺構外出土遺物

遺構外の出土遺物は、土器類では、縄文時代後期・晩期に属するものが全部で大のコンテナ1箱、石器、陶磁器片、古銭が出土している。そのうち、土器39点、石器3点、陶磁器片2点、古銭1点を掲載した。

1. 土器類 (図21～23・写真図版16～18)

第I群土器

65～93は後期に時期を位置づけられる土器群である。後期初頭・後期前葉・後期中葉・後期だが時期が明確でないものの4つに細分した。

○I群-1類

60～65は縄文時代後期初頭に位置づけられる土器である。いずれも深鉢の口縁部または口縁部～胴部にかけての破片である。60は連鎖状の刺突列と磨り消し縄文によって文様が展開している。地文はR L単節が施される。61にも連鎖状の刺突列が見られる。62は隆帯を伴う刺突列が施されている。63・64は口縁部の突起部にあたる部分で、刺突を伴うボタン状の隆帯と沈線で文様が構成されている。65は63・64と同様の突起部が一部剥落したものと思われる。

○I群-2類

66～83は後期前葉に位置づけられる土器である。いずれも深鉢の口縁部または胴部破片である。66は突起部に円形の刺突を、67は沈線を有する。68はL R単節縄文を平行沈線によって区画している。69はボタン状の刺突を有する。70は地文としてL R単節が、71・72は撚糸文が、74は網目状の撚糸文が施されている。75は口縁部及び口縁突起部に刺突列を有する。地文はR L単節が施されている。76・78・81は地文としてR L単節が施され、79・80はさらに平行沈線によってR L単節が区画されている。82は地文のL R単節が浅い沈線によって区画されている。83は71・72同様地文として撚糸文が施されている。

○I群-3類

84は後期中葉に位置づけられる深鉢の胴部破片である。地文であるL R単節に刺突列と平行沈線・充填縄文が展開している。

○I群-その他

85～93は後期に属する土器と思われるが、時期を明確に位置づけられない土器群である。85～87は鉢の底部、88～93は深鉢である。施文を有するものはいずれも地文のみである。

第II群土器

94～98は縄文時代晩期に位置づけられる土器群である。晩期初頭～前葉・後葉・晩期だが時期が明確でないものの3つに細分した。

○II群-1類

晩期初頭～前葉に位置づけられる土器である。94は地文であるL R単節を平行沈線で区画している。95は注口土器の頸部破片である。平行沈線が施文されている部分である。

○Ⅱ群－2類

晩期後葉に位置づけられる土器である。本遺跡からこの時期に相当する出土遺物は1点のみである。96は鉢の胴部破片である。沈線による工字文が施文されている。

○Ⅱ群－その他

晩期に属すると思われるが時期を明確に位置づけられない土器である。97・98はいずれも地文のみが施された深鉢土器の口縁部破片である。

2. 石器類 (図23、写真図版18)

○剝片石器

1点のみ出土している。99は石鏃で、形状は無茎の凹基である。なお、先端の一部を欠失している。

○礫石器

2点出土している。100は凹石で片面の中央部に使用痕を有する。101は磨石とした。両端に使用痕をわずかに有する。

3. 陶磁器 (図23、写真図版18)

陶器・磁器の皿の破片がそれぞれ1点ずつ出土している。102は瀬戸産の灰釉陶器である。16世紀前半のものと思われる。103は肥前産の白磁染め付けである。18世紀のものと思われる。

4. 古 銭 (図23、写真図版18)

寛永通宝が調査区中央南端の畑地から出土している。新寛永通宝であり背面に「佐」の文字が記入されている。1717年鑄造のものと思われる。

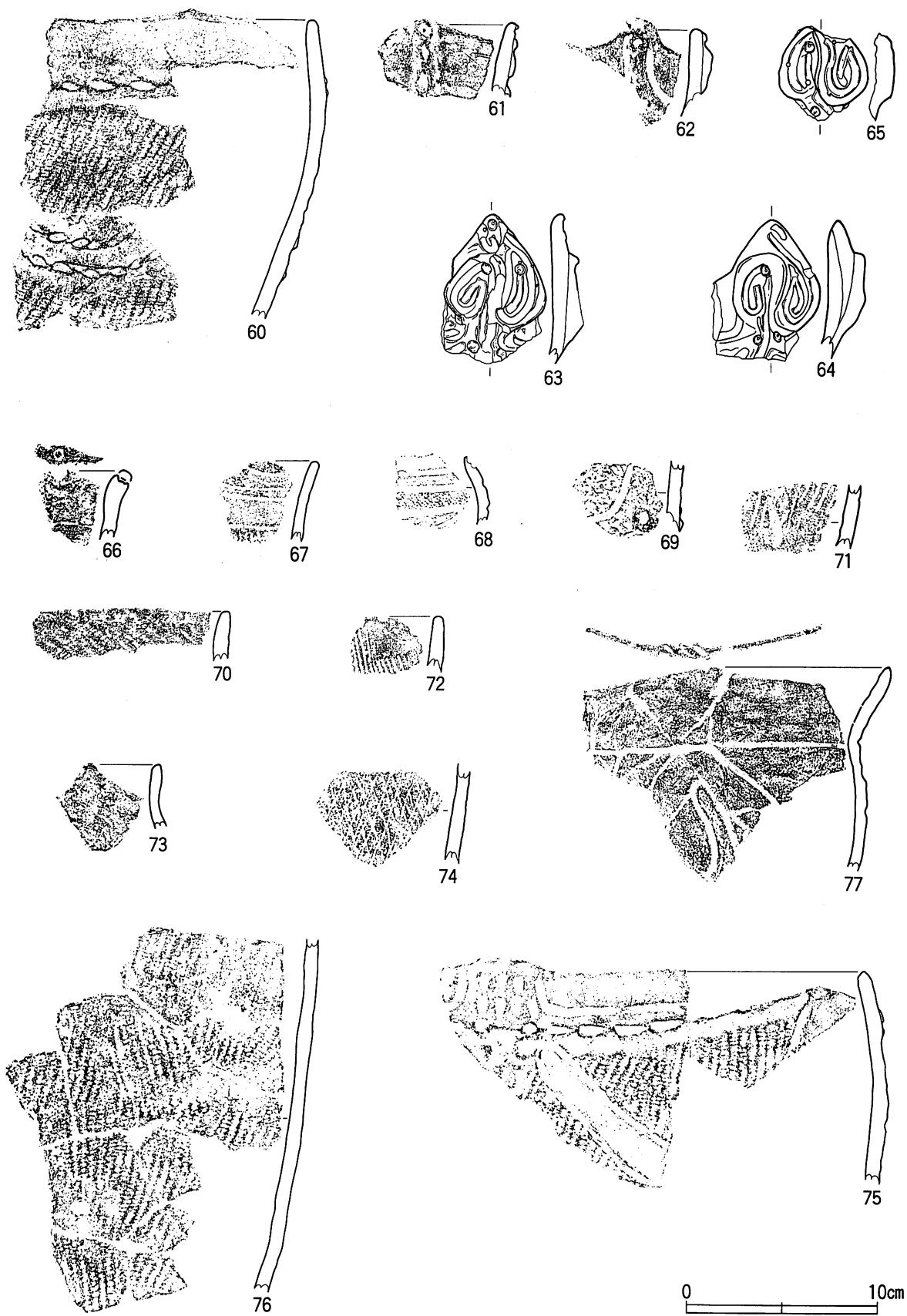


图21 遺構外出土遺物 (1)

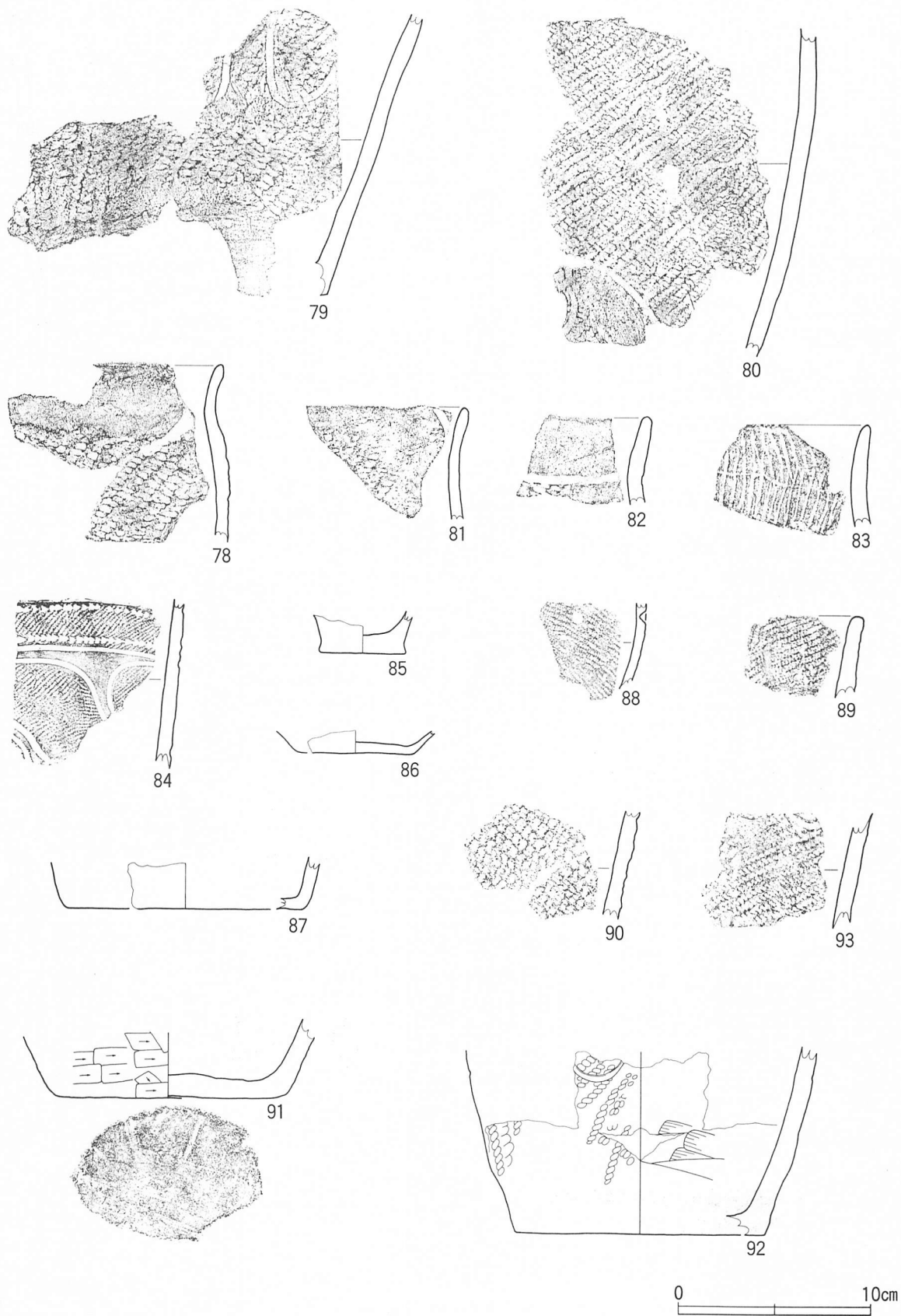


图22 遺構外出土遺物 (2)

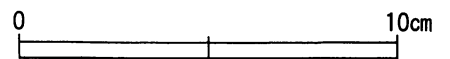
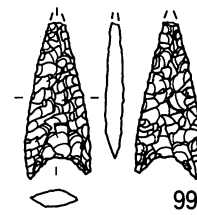
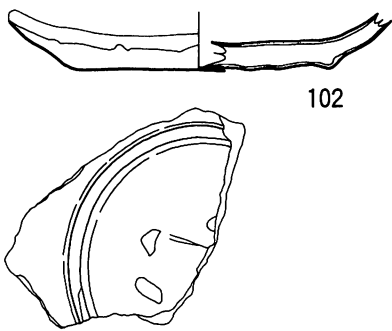
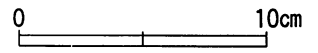
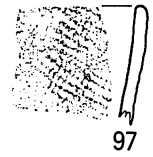
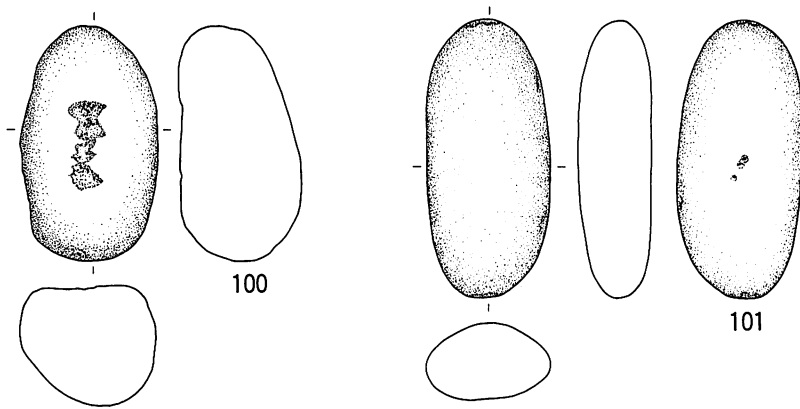


图23 遺構外出土遺物 (3)

表2 土器観察表

番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	内面	時期	分類	図版	写真
1	第1号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	17	12
2	第1号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R ?	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	17	12
3	第1号土坑・埋土	深鉢	胴部	L	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	17	12
4	第3号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	沈線による三叉文と平行沈線文	ナデ?	晩期・大洞B	Ⅱ-1	17	12
5	第3号土坑・埋土	浅鉢? 鉢?	口～胴部	L R	口縁部に突起。沈線による三叉文と平行沈線文	ミガキ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	17	12
6	第3号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	R L	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	17	12
8	第5号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	沈線による三叉文と平行沈線文	ナデ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	17	12
9	第5号土坑・埋土	注口	口縁部		平行沈線	ナデ	晩期	Ⅱ	17	12
10	第5号土坑・埋土	深鉢	胴部	L	沈線区画の磨り消し縄文	ナデ	晩期	Ⅱ	17	12
11	第5号土坑・埋土	鉢	口～胴部	L R	口縁部に突起。波状口縁	ナデ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	17	12
12	第5号土坑・埋土	鉢	口～胴部	L R ?	口縁部山形突起、平行沈線	ナデ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	17	12
13	第5号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	R L	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	18	12
14	第6号土坑・埋土	浅鉢	口～胴部		沈線による三叉文と平行沈線	ミガキ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	18	13
15	第6号土坑・埋土	鉢?	胴～底部	L R ?	地文のみ	ナデ	後・晩期	Ⅲ	18	13
16	第6号土坑・埋土	鉢	底部			ナデ?	後・晩期	Ⅲ	18	13
17	第6号土坑・埋土	注口	胴部		平行沈線・9と同一個体	ナデ	晩期	Ⅱ	18	13
18	第7号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	18	13
19	第7号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	18	13
20	第7号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	18	13
21	第7号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L R	地文のみ	ミガキ	晩期	Ⅱ	18	13
22	第7号土坑・埋土	壺	口～胴部		平行沈線の一部と思われる部分有り	ミガキ?	晩期・大洞B	Ⅱ-1	18	13
23	第7号土坑・埋土	壺	胴部		沈線区画の磨り消し縄文	ナデ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	18	13
24	第7号土坑・埋土	鉢	口～胴部	L R	沈線による三叉文と平行沈線	ミガキ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	18	13
25	第7号土坑・埋土	注口	口～胴部		平行沈線・三叉文?	ナデ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	18	13
26	第8号土坑・埋土	鉢	口～胴部		口縁部B字突起・沈線による三叉文と平行沈線	ミガキ	晩期・大洞B	Ⅱ-1	18	13
28	第12号土坑・埋土	深鉢	口縁部		波状口縁・刺突列(円形)	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
29	第12号土坑・埋土	深鉢	口縁部		波状口縁?刺突列	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
30	第12号土坑・埋土	深鉢	口縁部		波状口縁	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
31	第12号土坑・埋土	深鉢	口縁部		波状口縁・刻みの裝飾有り	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
32	第12号土坑・埋土	深鉢	口縁部		波状口縁	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
33	第12号土坑・埋土	深鉢	口縁部付近		隆帯を付す	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
34	第12号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	R L	波状口縁・地文のみ	ナデ	後期初頭	I-1	19	13
35	第12号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	L	波状口縁・地文のみ	ナデ	後期末	I-4	19	13
36	第12号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	R L	地文のみ	ナデ	後期末	I-4	19	13
37	第12号土坑・埋土	深鉢	胴～底部	L R	胴部下端に調整有り。底部木葉痕。	ナデ	後期	I	19	14
38	第12号土坑・埋土	深鉢	胴～底部		外面ナデ無文。底部部分的に剥落。	ナデ	後期	I	19	14
39	第16号土坑・埋土	深鉢	胴部	L R	沈線+磨消	ミガキ	後期前葉	I-2	19	14
40	第16号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	R L	小波状の口縁・地文のみ	ミガキ	後期前葉	I-2	19	14
41	第16号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	R L	波状口縁・沈線+磨消	ナデ	後期前葉	I-2	20	14
42	第2号掘立柱建物跡PP1	深鉢	胴部	R L	貼り付け+刺突(ボタン状)	ナデ	後期前葉	I-2	20	14
43	第2号掘立柱建物跡PP9	深鉢	口縁部	R L	山形突起(円孔有り)・沈線	ナデ	後期前葉	I-2	20	14
60	ⅡA9i区Ⅲ層下	深鉢	口～胴部	R L	波状口縁・隆帯+刺突列(連鎖状)+磨消	ナデ	後期初頭	I-1	21	16
61	ⅡA8h区Ⅲ層上	深鉢	口縁部		小波状の口縁・隆帯+刺突列(連鎖状)	ナデ	後期初頭	I-1	21	16
62	ⅡA7h区Ⅲ層下	深鉢	口縁部		隆帯+刺突列	ナデ	後期初頭	I-1	21	16
63	ⅡA9i区Ⅲ層下	深鉢	口縁部		突起部、隆帯+沈線・刺突(ボタン状)	ナデ	後期初頭	I-1	21	16
64	ⅡA6i区Ⅲ層上	深鉢	口縁部		突起部、隆帯+沈線・刺突(ボタン状)	ナデ	後期初頭	I-1	21	16
65	ⅡA9i区Ⅲ層下	深鉢	口縁部		突起部が剥落、隆帯+沈線・刺突(ボタン状)	ナデ?	後期初頭	I-1	21	16
66	ⅠA5g区Ⅲ層上	深鉢	口縁部		波状口縁・突起部に刺突	ミガキ	後期前葉	I-2	21	16
67	ⅠB7a区Ⅲ層上	深鉢	口縁部		波状口縁・突起部に沈線	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
68	ⅡB2c区Ⅲ層上	深鉢	胴部	L R	縄文を挟む平行沈線	ミガキ	後期前葉	I-2	21	16
69	ⅡB2c区Ⅲ層上	深鉢	口縁部		沈線+刺突(ボタン状)	ミガキ	後期前葉	I-2	21	16
70	ⅠA5f区Ⅲ層上	深鉢	口縁部	L R	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
71	ⅠB7d区Ⅲ層上	深鉢	胴部	撚糸文	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
72	ⅡB1b区Ⅲ層上	深鉢	胴部	撚糸文	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
73	ⅡB2b区Ⅲ層上	深鉢	口縁部			ナデ	後期前葉	I-2	21	16
74	ⅡB5c区Ⅲ層上	深鉢	胴部	網目状撚糸文	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
75	ⅡC7c区Ⅲ層上	深鉢	口～胴部	R L	波状口縁・突起部に刺突・隆帯・刺突列	ナデ	後期前葉	I-2	21	16

番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	内面	時期	分類	図版	写真
76	ⅡC7c区Ⅲ層上	深鉢	胴部	R L	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
77	ⅡA9j区Ⅲ層下	深鉢	口～胴部		波状口縁・沈線文	ナデ	後期前葉	I-2	21	16
78	ⅡA9i区Ⅲ層下	深鉢	口～胴部	R L	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	22	17
79	ⅡA7h区Ⅲ層下	深鉢	胴部	R L	沈線	ナデ	後期前葉	I-2	22	17
80	ⅡA9i区Ⅲ層下	深鉢	胴部	R L	沈線	ナデ	後期前葉	I-2	22	17
81	ⅡA8i区Ⅲ層上	深鉢	口縁部	R L	地文のみ	ナデ	後期前葉	I-2	22	17
82	ⅡA7h区Ⅲ層下	深鉢	口縁部	L R	区画のための浅い沈線	ナデ	後期前葉	I-2	22	17
83	ⅡA9i区Ⅲ層下	深鉢	口縁部		撚糸文	ナデ	後期前葉	I-2	22	17
84	I B7c区Ⅲ層上	深鉢	胴部	L R	刺突列と平行沈線・充填縄文	ミガキ	後期中葉	I-3	22	17
85	ⅡA0a区Ⅲ層上	鉢	底部			ナデ	後期	I	22	17
86	ⅡB0b区Ⅲ層上	鉢	底部			ナデ?	後期	I	22	17
87	ⅡB2c区Ⅲ層上	鉢	底部			ナデ	後期	I	22	17
88	I B5g区Ⅲ層上	深鉢	胴部	R L	地文のみ・補修孔有り	ナデ	後期	I	22	17
89	ⅡA0a区Ⅲ層上	深鉢	口縁部	L R	地文のみ	ナデ	後期	I	22	17
90	ⅡB0c区Ⅲ層上	深鉢	胴部	R L R	地文のみ	ナデ	後期	I	22	17
91	ⅡA8h区Ⅲ層上	深鉢	底部			ナデ	後期	I	22	17
92	ⅡA7h区Ⅲ層下	深鉢	胴～底部	R L	部分的に施文	ナデ	後期	I	22	17
93	ⅡB5c区Ⅲ層上	深鉢	胴部	R L	地文のみ	ナデ	後期	I	22	17
94	I B7c区Ⅲ層上	深鉢	口～胴部	L R	平行沈線	ナデ	晩期初頭	Ⅱ-1	23	17
95	I B1g区Ⅲ層上	注口	頸部		平行沈線	ナデ?	晩期・大洞B	Ⅱ-1	23	17
96	I B2g区Ⅲ層上	鉢	胴部		沈線による工字文	ナデ	晩期・大洞A	Ⅱ-2	23	17
97	ⅡB0b区Ⅲ層上	深鉢	口縁部	R L	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	23	18
98	ⅡB3c区Ⅲ層上	深鉢	口縁部	L	地文のみ	ナデ	晩期	Ⅱ	23	18

表3 石器観察表

番号	出土地点	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考	図版	写真
7	第3号土坑・埋土	凹石	11.5	7.7	3.8	490	滑石	両面に使用痕有	17	12
27	第8号土坑・埋土	凹石	11.2	8.2	4.2	525	凝灰岩	両面に使用痕有	18	13
99	I A5j区	石鏃	4.1	1.8	0.5	2.82	頁岩	尖端部を欠失	23	18
100	I B6d区Ⅲ層上	凹石	9.5	5.6	4.7	403	花崗閃緑岩	片面に使用痕	23	18
101	ⅡB3c区Ⅲ層上	磨石	11.3	5.1	3.1	268	ホルンフェルス		23	18

表4 古銭観察表

番号	出土地点	銭名	分類	素材	铸造年代	直径	量目	備考	図版	写真
44	第1号墓坑・埋土	寛永通宝?		銅		2.5	3.73	摩滅のため不明な点多い。	20	15
46	第3号墓坑・埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1636年～1659年	2.45	2.73		20	15
47	第3号墓坑・埋土	寛永通宝		銅		2.4	3.27	摩滅のため不明な点多い。	20	15
48	第3号墓坑・埋土	寛永通宝?		銅		2.5	4.01	摩滅のため不明な点多い。	20	15
49	第3号墓坑・埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1697年～	2.5	3.76		20	15
50	第3号墓坑・埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1636年～1659年	2.35	2.18		20	15
51	第3号墓坑・埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1636年～1659年	2.4	2.72		20	15
52	第8号墓坑・埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1697年～	2.35	2.11		20	15
53	第8号墓坑・埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1636年～1659年	2.45	2.71		20	15
54	第9号墓坑・埋土	元祐通宝	北宋銭	銅	1086年～	2.4	2.46		20	15
56	第12号墓坑・埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1636年～1659年	2.4	2.98		20	15
58	ⅡB4e区PP1	寛永通宝	古寛永	銅	1636年～1659年	2.45	3.48		20	15
59	ⅡB4e区PP1	寛永通宝	古寛永	銅	1636年～1659年	2.4	3.37		20	15
104	ⅡB3c区Ⅲ層上	寛永通宝	新寛永	銅	1717年	2.45	2.56	背面に「佐」と記入	23	18

表5 陶磁器観察表

番号	出土地点	器種	胎土	釉薬・絵付	産地	年代	備考	図版	写真
45	第2号墓坑・埋土	碗	灰黄色	灰緑色釉・鉄絵	大堀相馬	18世紀以降	内底3ヶ所に目跡有り 高台露胎	20	15
57	第13号墓坑・埋土	小碗	灰褐色	灰釉	大堀相馬	18世紀以降	高台露胎	20	15
102	I B1f区Ⅱ層上	皿	灰黄色	灰釉	瀬戸	16世紀前半	外底に輪トチン跡有り	23	18
103	I B8d区Ⅱ層下	皿	白	白磁染付	肥前	18世紀		23	18

表6 和鏡観察表

番号	出土地点	遺物名	計測値	備考	図版	写真
55	第11号墓坑・埋土	和鏡	面径10.8cm 縁高1.0cm 厚さ0.2cm～0.5cm		20	15

VI まとめ

1. 遺構

本遺跡から検出された遺構は、土坑16基、掘立柱建物跡4棟、柱穴状ピット101基、墓坑14基である。

土坑は16基検出された。調査区南西側の沢跡沿いに集中している。平面形は楕円形及び円形のものが多いが、その他隅丸方形を呈するものもある。規模は73cm～189cm、深さは16cm～105cmを測る。時期が位置づけられるのは16基中8基でその内容は、縄文時代後期に位置づけられるのが1基、以下後期末～晩期が1基、晩期前葉が3基、晩期だが詳細な時期が明確にできないものが3基である。

掘立柱建物跡は調査区中央南から2棟、調査区東側から2棟検出された。時期は調査区中央に位置するのは縄文時代、調査区東側のものは近世に属すると思われる。柱穴状ピットは掘立柱建物跡の周辺から数十基検出されているが、遺構に伴うかどうかは不明である。

墓坑は調査区南東隅から14基集中して検出された。平面形は円形を呈するものが4基、以下楕円形が4基、隅丸長方形が3基、隅丸台形2基、隅丸方形1基である。規模は87cm～174cm深さは18cm～85cmを測る。時期が位置づけられるのは9基で、そのほとんどが近世以降のものである。

2. 遺物

大コンテナ2箱分の土器・石器・陶磁器・古銭・煙管・和鏡が出土している。

出土した土器は全て縄文土器である。時期は後期初頭～前葉、晩期初頭～前葉に属するものの占める割合が多く、その他後期中葉に属するもの、晩期後葉に属するものがわずかに出土している。なお、本稿では後期に属するものを第Ⅰ群土器として、晩期に属するものを第Ⅱ群土器として分類している。(詳細な分類基準は遺構外出土遺物の欄に記載)

石器は礫石器が3点、剥片石器が1点出土している。

陶磁器は遺構内から2点、遺構外から2点計4点出土している。

古銭は、北宋銭が1点、古寛永通宝が6点、新寛永通宝が4点、不明なもの3点、計14点出土している。

おわりに

2ヶ年にわたる調査の結果、古館遺跡内では縄文時代及び近世の掘立柱建物跡、土坑、墓坑を確認することができた。特に、縄文時代に属する遺構が沢跡の周辺にあることから、集落は形成しなかったものの、少なからず生活を成り立たせていく上でこの土地を利用していたことが明らかとなった。

本県の釜石市における発掘調査は現在まで数件しか行われていないが、今後三陸縦貫道建設等の開発に伴う発掘調査が行われる予定である。本書がわずかながらでもその資料に加えていただければ幸いである。

引用・参考文献

- 酒井宗孝ほか (1997) : 「上鷹生遺跡発掘調査報告書」岩文振第253集 (財) 岩文振
- 酒井宗孝ほか (2000) : 「上野平遺跡発掘調査報告書」岩文振第333集 (財) 岩文振
- 菊池榮壽ほか (2000) : 「山王山遺跡第9次発掘調査報告書」岩文振第316集 (財) 岩文振
- 斉藤邦雄ほか (1995) : 「大日向遺跡発掘調査報告書」岩文振第225集 (財) 岩文振
- 中村良幸 (1979) : 「立石遺跡」大迫町埋蔵文化財報告第3集 大迫町教育委員会
- 中村良幸 (1986) : 「観音堂遺跡」大迫町埋蔵文化財報告第11集 大迫町教育委員会
- 本堂寿一 (1978) : 「八天遺跡」北上市文化財報告書第24集 北上市教育委員会
- 本間 宏 (1990) : 「東北地方南部における縄文後期前葉土器群の変遷過程」
『縄文後期の諸問題』 縄文セミナーの会
- 朝倉雄大ほか (2000) : 「佐野遺跡第1次・三日町I遺跡第2次発掘調査報告書」
岩文振第313集 (財) 岩文振

写真図版



遺跡遠景



遺跡全景

写真図版1 空中写真

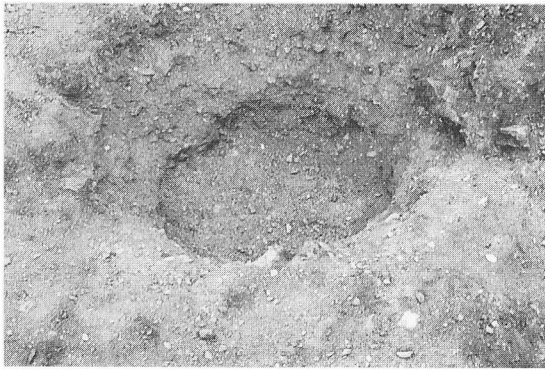


基本土層

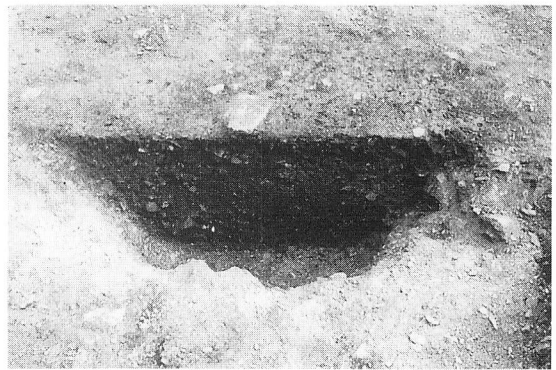


調査前風景（99年度）

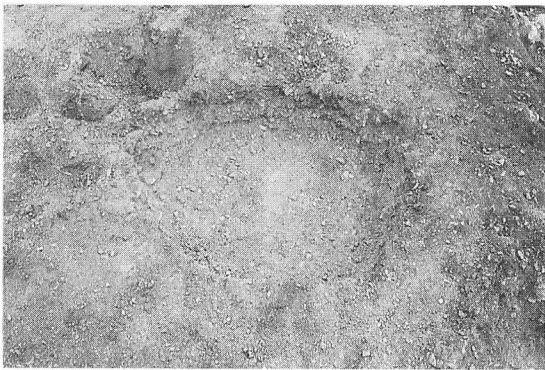
写真図版 2 基本土層他



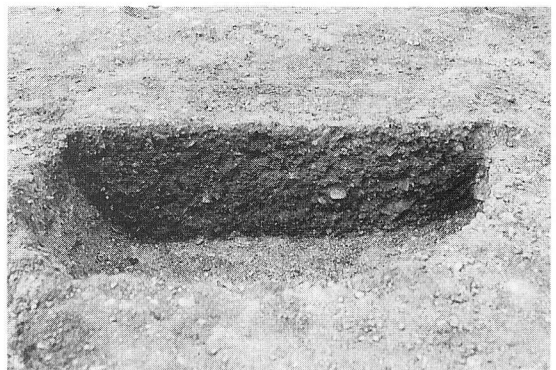
第 1 号土坑



埋 土



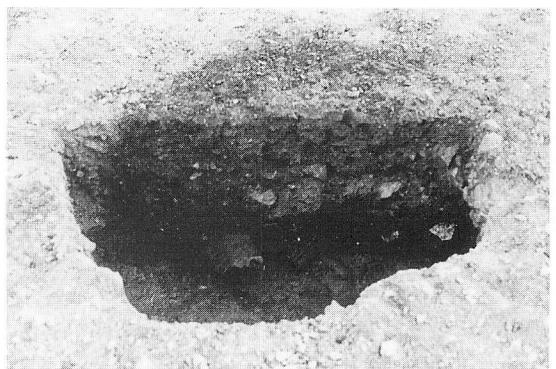
第 2 号土坑



埋 土



第 3 号土坑

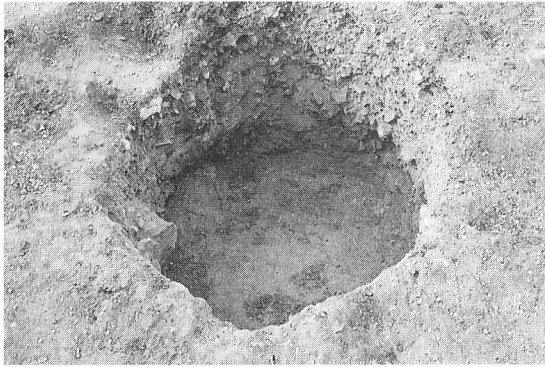


埋 土

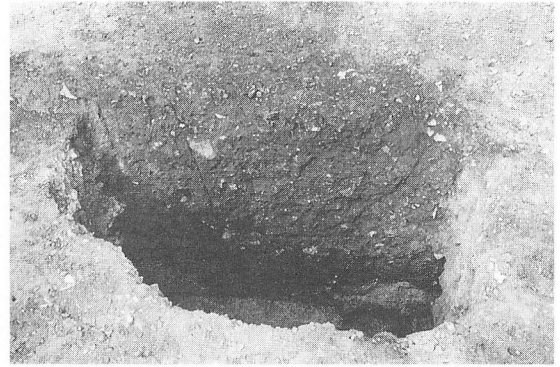


第 4 号土坑

写真图版 3 土 坑 (1)



第5号土坑



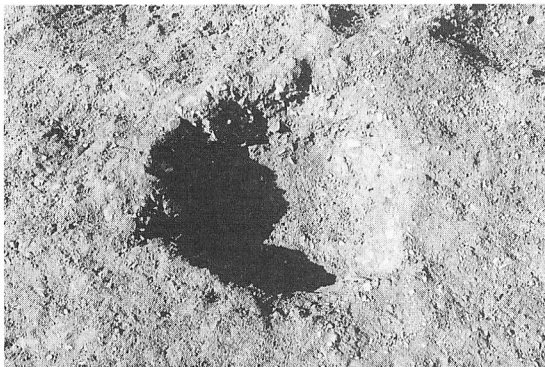
埋 土



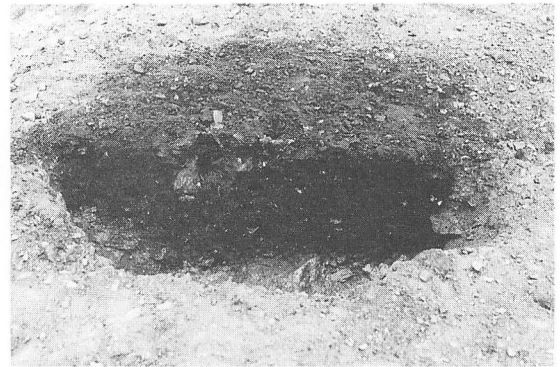
第6号土坑



埋 土



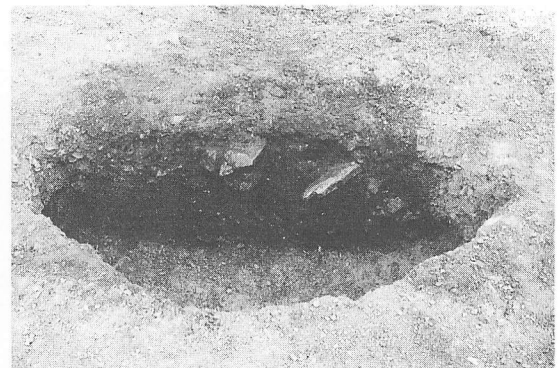
第7号土坑



埋 土

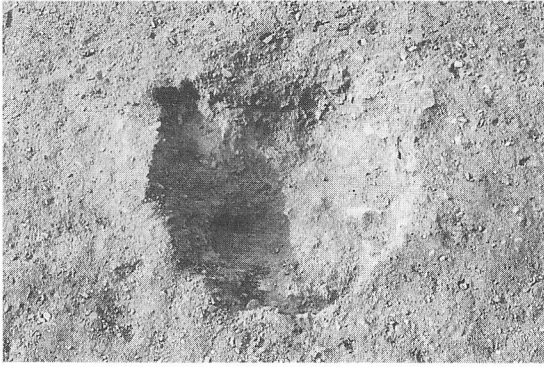


第8号土坑



埋 土

写真图版4 土坑(2)



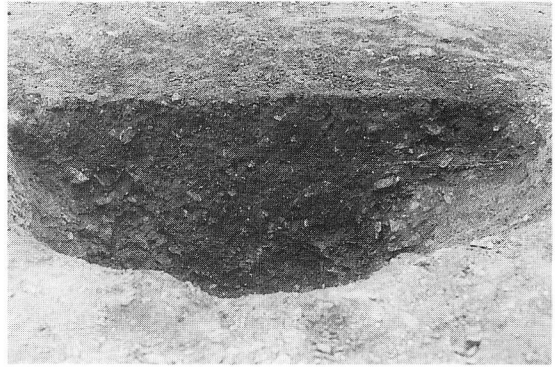
第9号土坑



埋 土



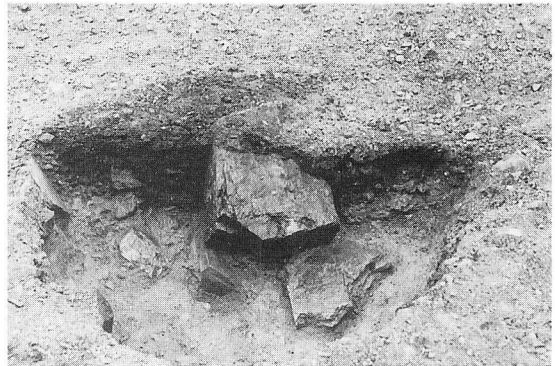
第10号土坑



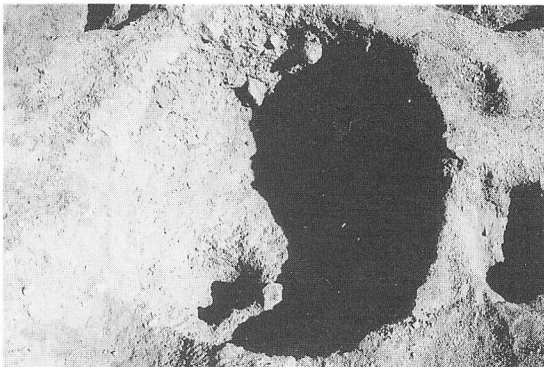
埋 土



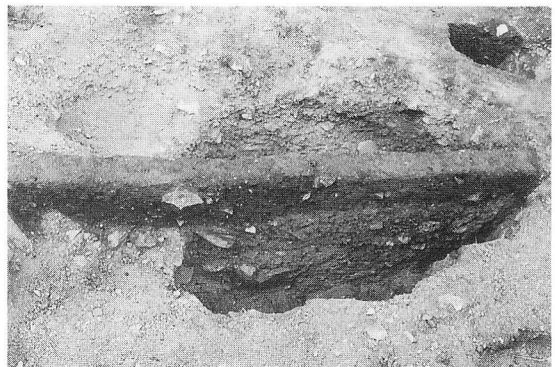
第11号土坑



埋 土

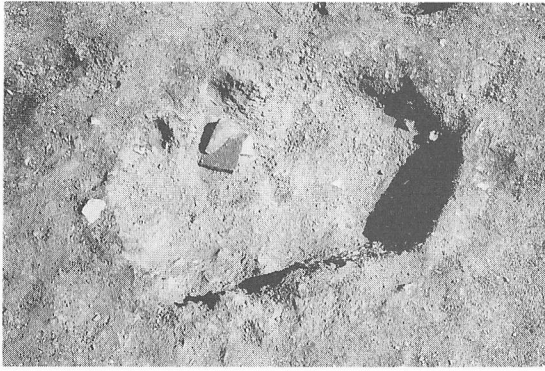


第12号土坑

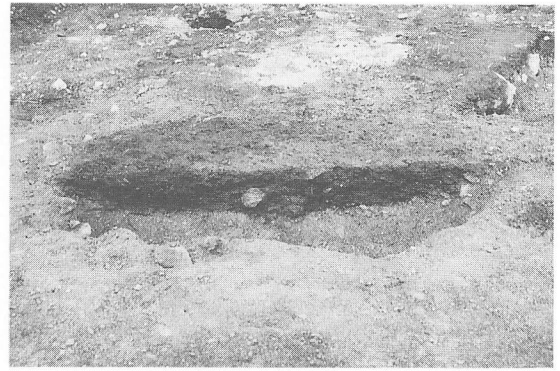


埋 土

写真图版5 土坑(3)



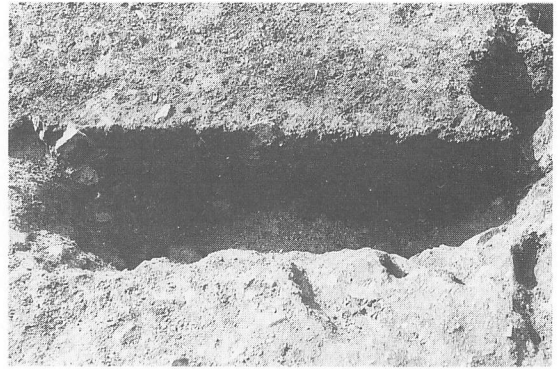
第13号土坑



埋 土



第14号土坑



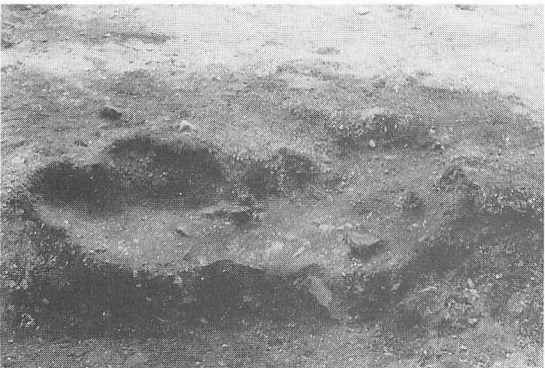
埋 土



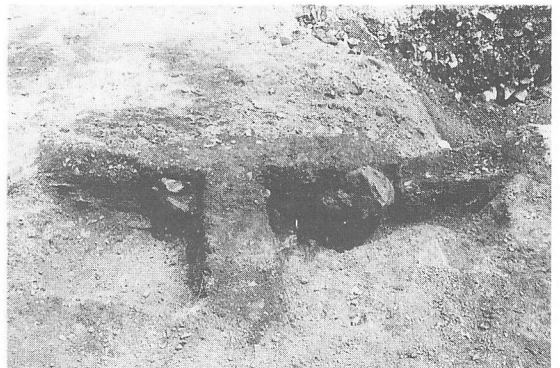
第15号土坑



埋 土



第16号土坑



埋 土

写真图版6 土坑(4)



第2号掘立柱建物跡

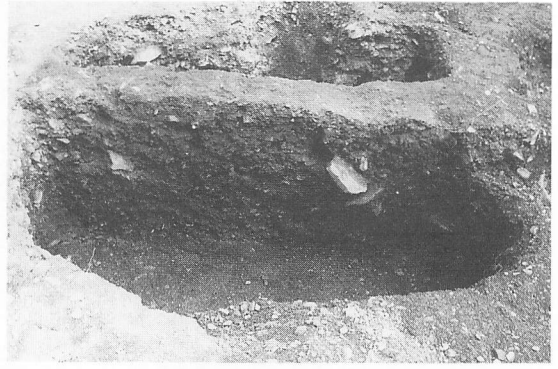


第3号掘立柱建物跡

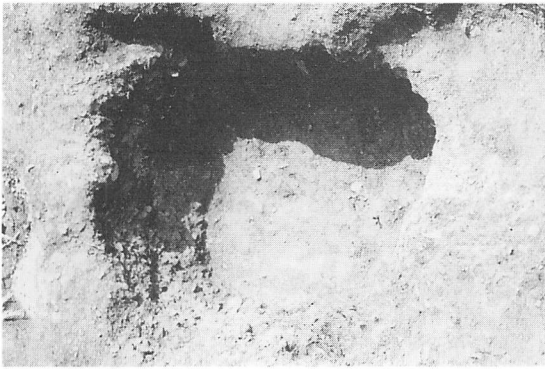
写真図版7 掘立柱建物跡



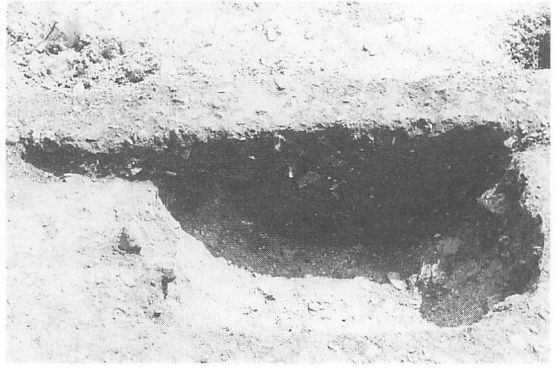
第 1 号墓坑



埋 土



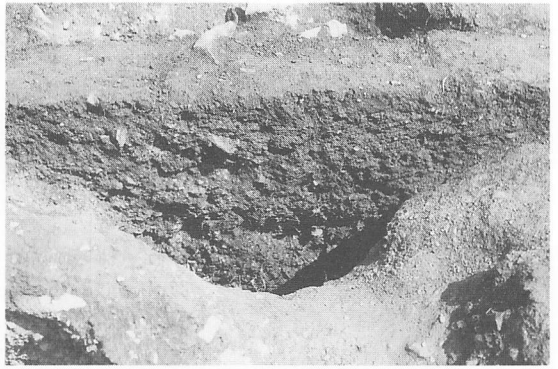
第 2 号墓坑



埋 土



第 3 号墓坑



埋 土

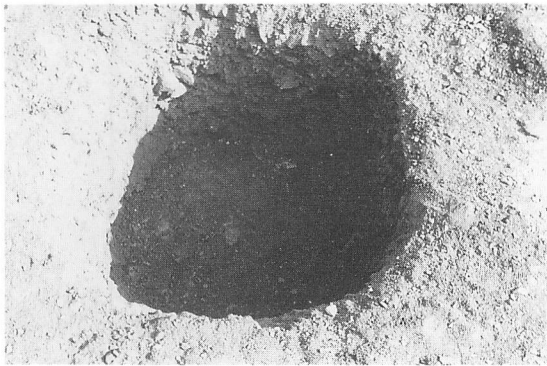


第 4 号墓坑

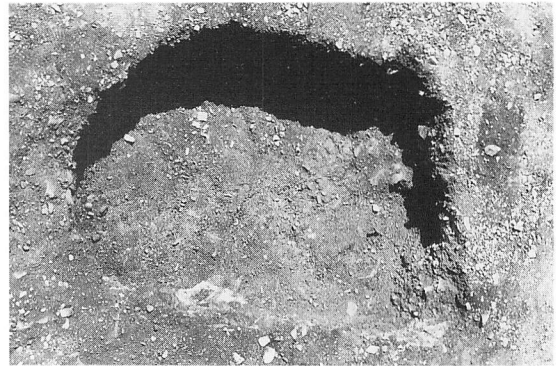


埋 土

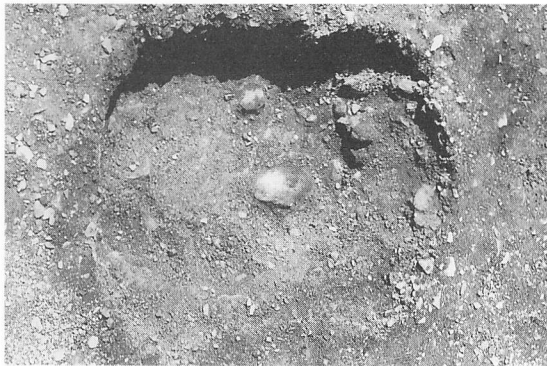
写真图版 8 墓 坑 (1)



第5号墓坑



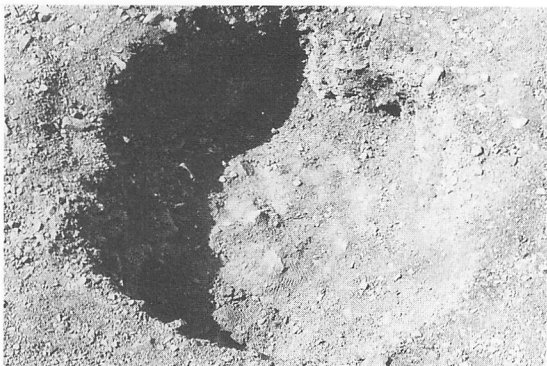
第6号墓坑



第7号墓坑



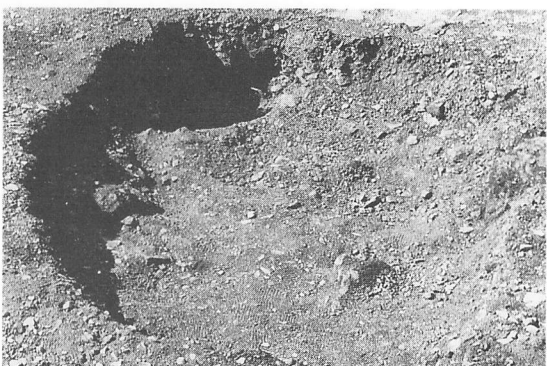
第7号土坑埋土



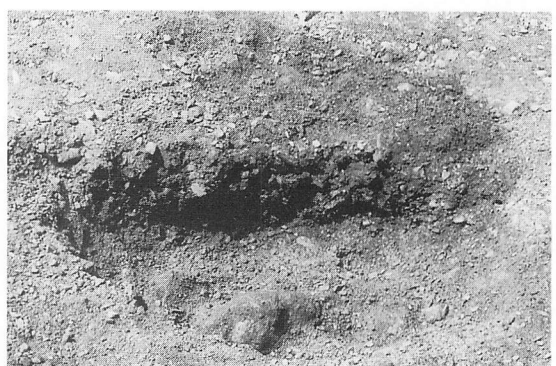
第8号墓坑



埋土

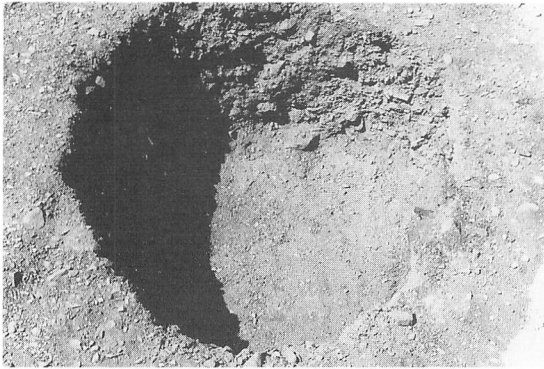


第9号墓坑

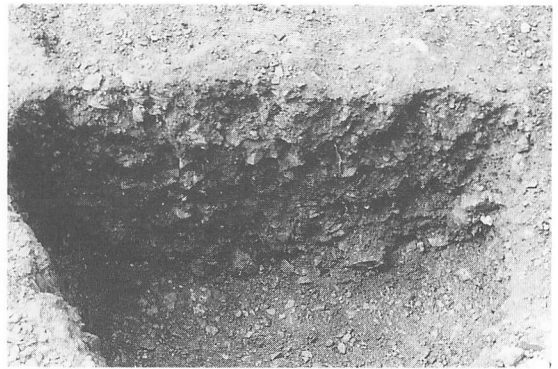


埋土

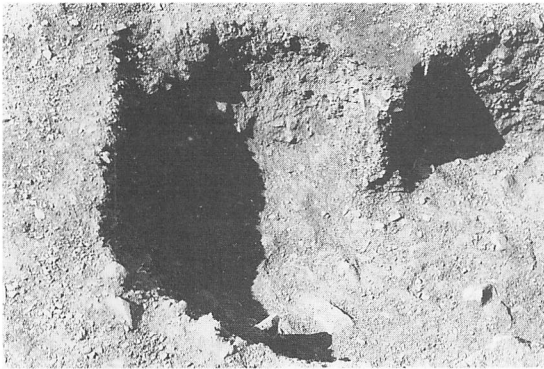
写真图版9 墓坑(2)



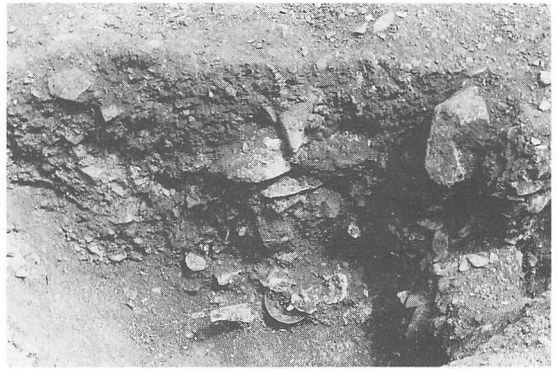
第10号墓坑



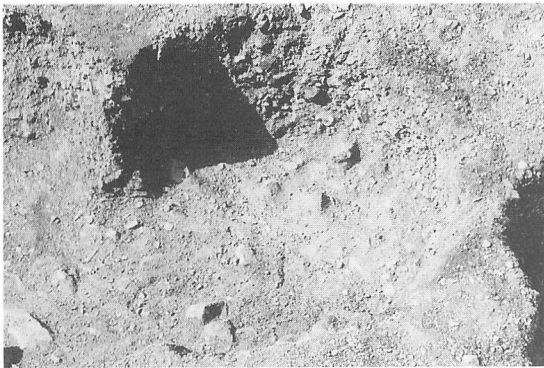
埋 土



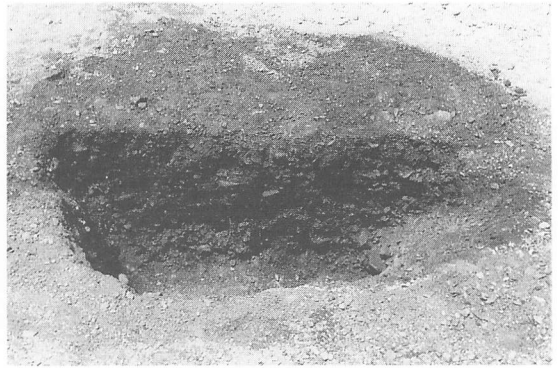
第11号墓坑



埋 土



第12号墓坑



埋 土



調 査 風 景

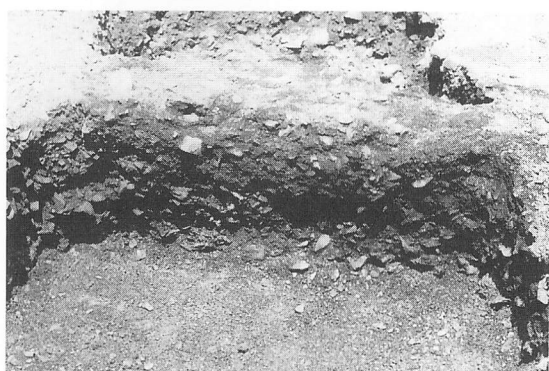
写真図版10 墓 坑 (3)



第13号墓坑



第14号墓坑



埋 土

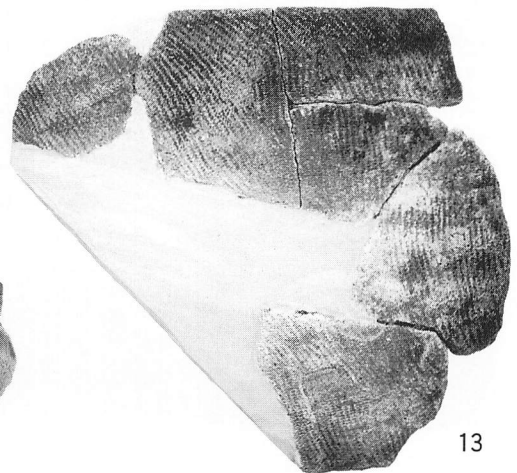
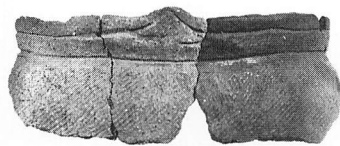
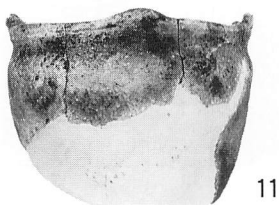
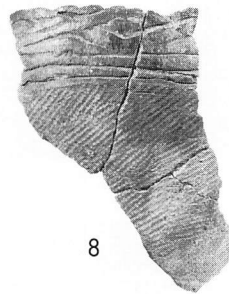
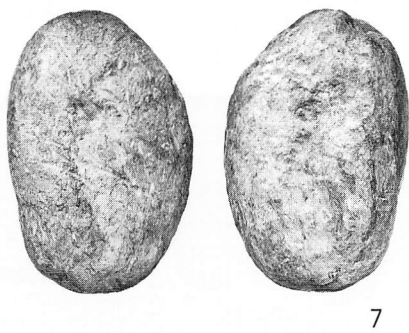
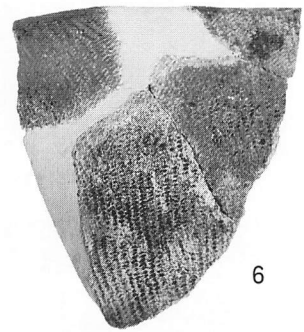
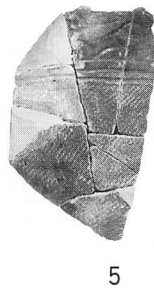
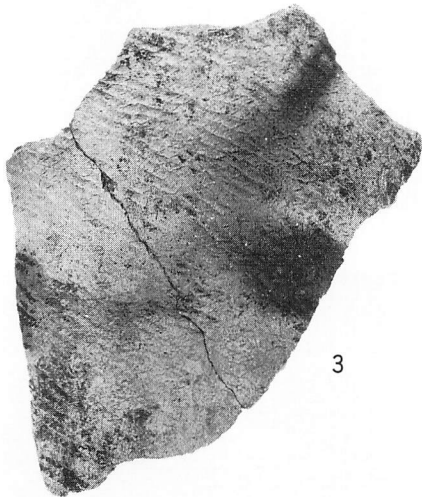
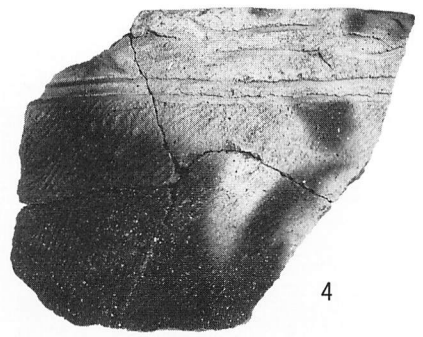
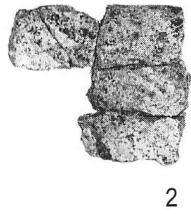
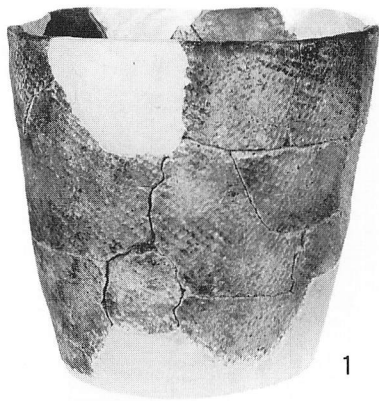


埋 土

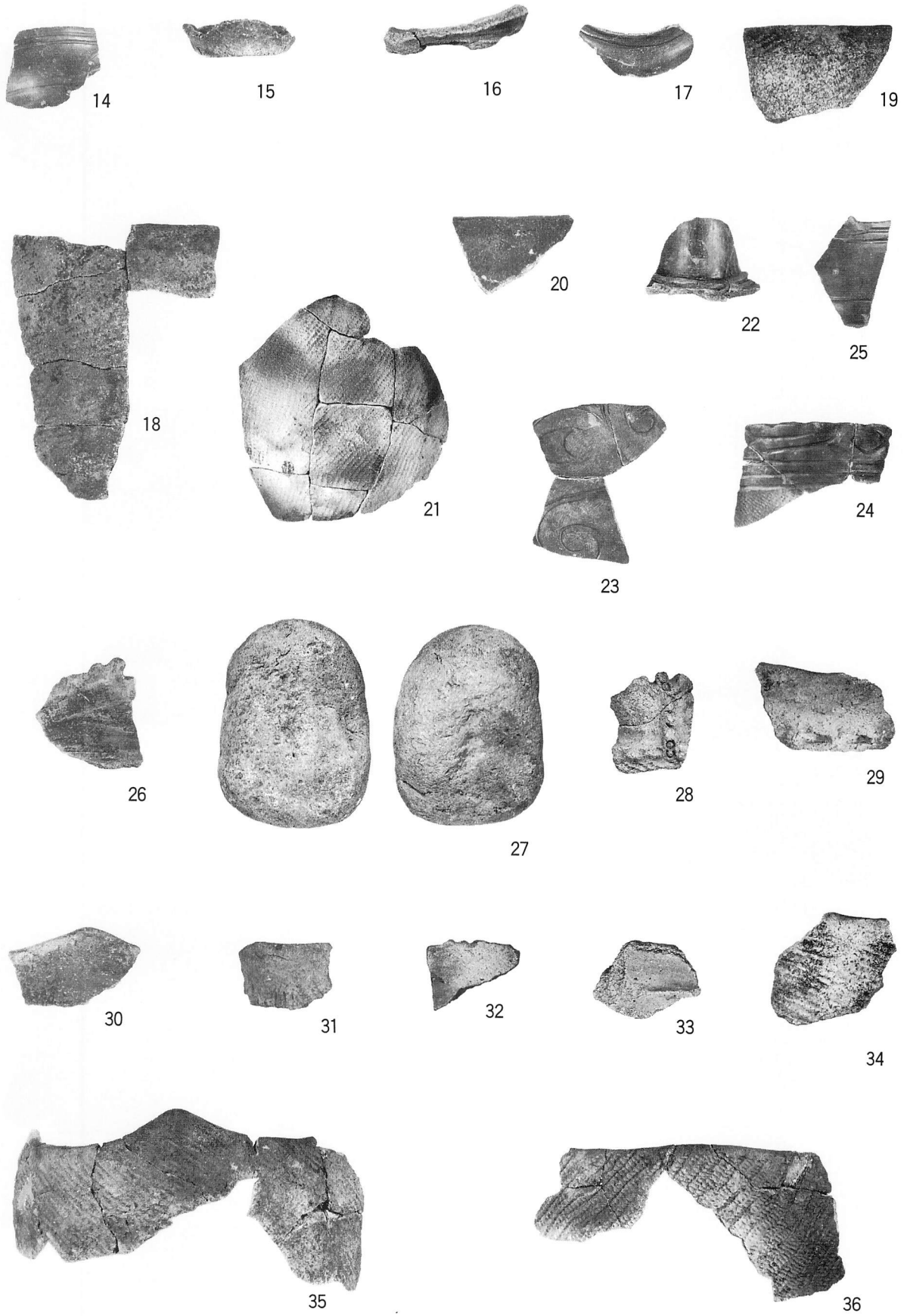


調 査 風 景

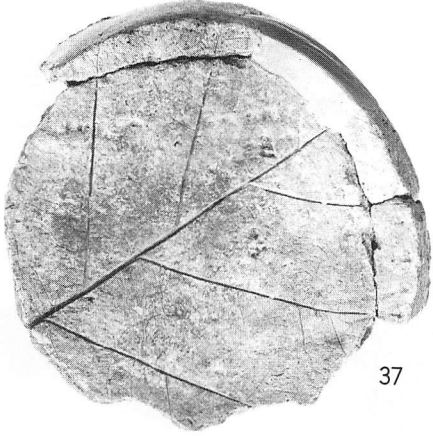
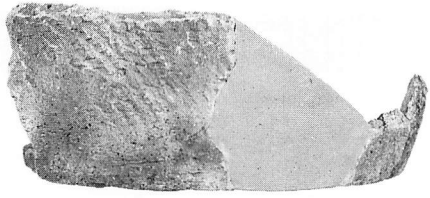
写真図版11 墓 坑 (4)



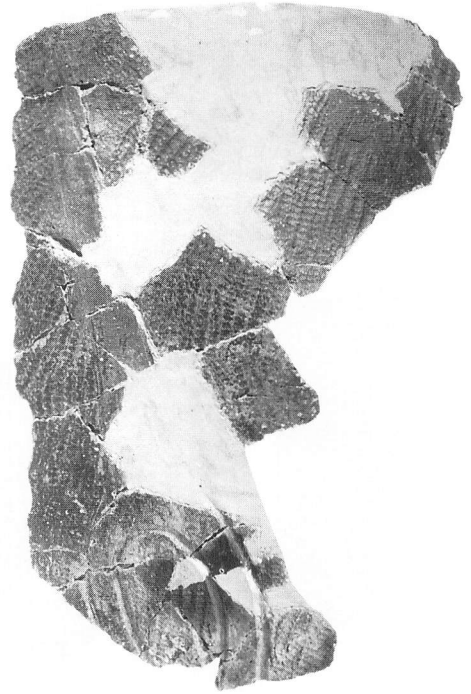
写真図版12 遺構内出土遺物 (1)



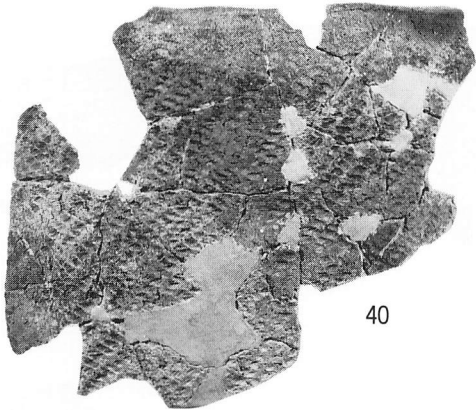
写真図版13 遺構内出土遺物 (2)



37



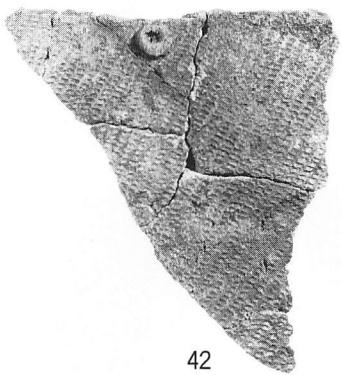
39



40



38



42



43

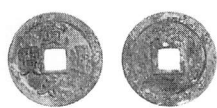


41

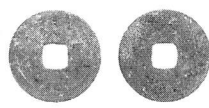
写真図版14 遺構内出土遺物 (3)



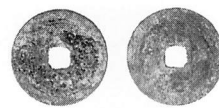
44



46



47



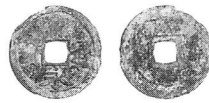
48



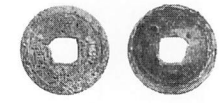
49



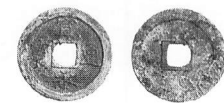
50



51



52



53



54



56



58



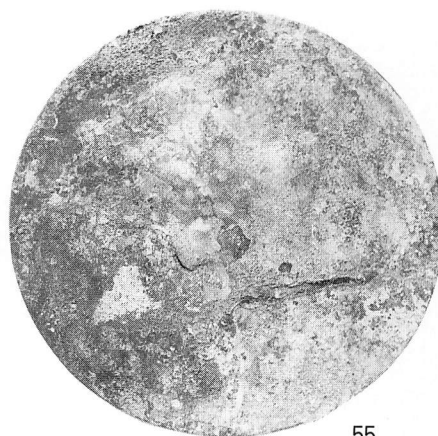
45



57



59



55

写真図版15 遺構内出土遺物(4)



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



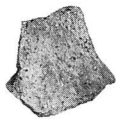
70



71



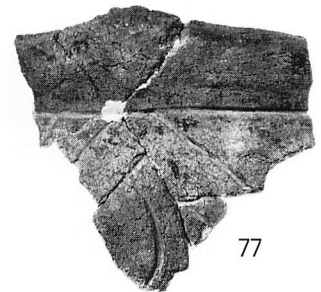
72



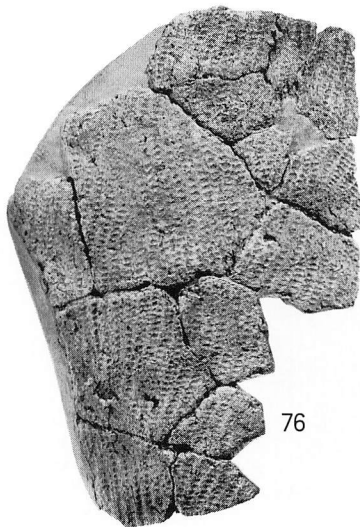
73



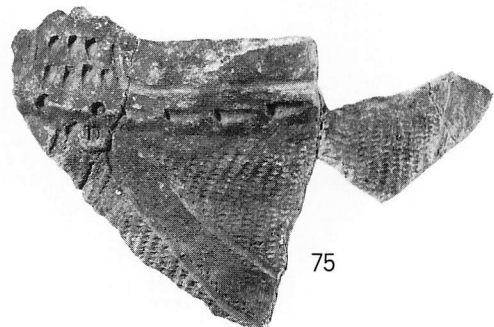
74



77



76

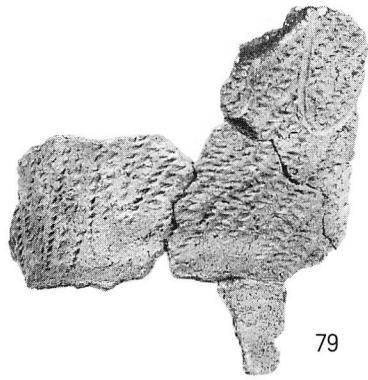


75

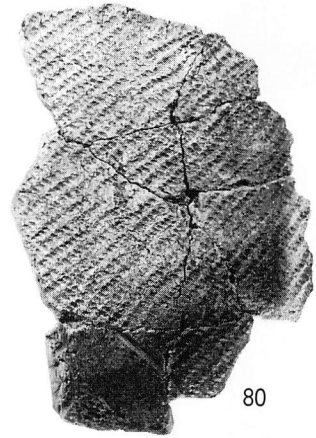
写真図版16 遺構外出土遺物 (1)



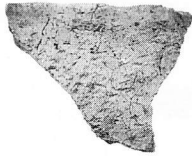
78



79



80



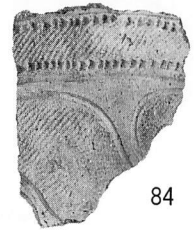
81



82



83



84



85



86



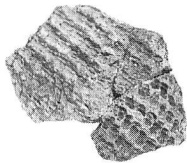
87



88



89



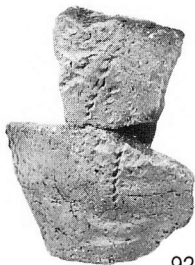
90



91



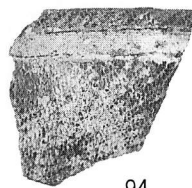
95



92



93

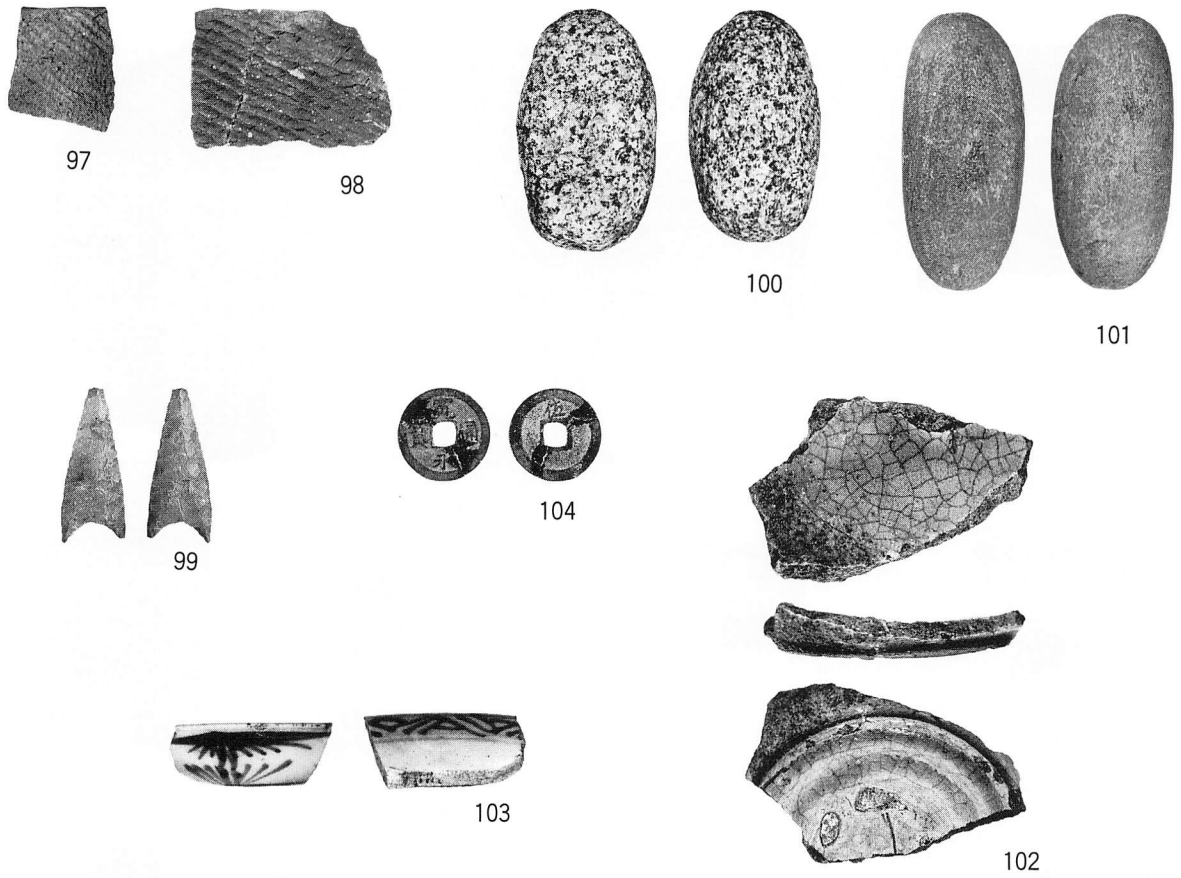


94



96

写真図版17 遺構外出土遺物(2)



写真図版18 遺構外出土遺物（3）

報告書抄録

ふりがな	ふるだていせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	古館遺跡発掘調査報告書							
副書名	仙人峠道路工事関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第374集							
編著者名	早坂 悟、松尾 芳幸							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦2001年9月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ふるだていせき 古館遺跡	いわてけんかまいしし 岩手県釜石市 かつしまちだいちわり 甲子町第7地割 29-2 ほか	03211	MG70-1175	39度 15分 01秒	141度 46分 44秒	19990817 ~ 19991102 20000412 ~ 20000531	6,130	仙人峠道路 建設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
古館遺跡	散布地	縄文時代 近世 近代	掘立柱建物跡 土坑 墓坑	4棟 16基 14基 ほか	縄文土器(後・晩期) 剝片石器			

平成13年度 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長	伊 藤 民 也	副 所 長	高 橋 正 儀
[管 理 課]			
課 長 補 佐	葦 山 立	嘱 託	高 橋 照 雄 佐 木 光 重 加 藤 美 代 湯 沢 邦 子
主 査	沢 崎 岸 花		
[調 査 第 一 課]		[調 査 第 二 課]	
課 長 補 佐	佐 々 木 勝 文 佐 々 木 清 義 高 橋 介 透 小 山 内 迪 中 田 森 文 飯 赤 石 登 赤 吉 田 充 亀 原 大 二 郎 小 佐 々 木 眞 一 小 笠 原 健 一 小 金 野 進 小 岩 松 則 也 鳥 居 達 昭 金 羽 直 正 千 葉 村 克 稔 星 佐 藤 文 菊 池 上 貴 子 村 本 多 準 一 北 村 忠 昭 高 瀨 克 範 丸 山 浩 治 島 原 弘 征 中 村 林 美 小 江 藤 池 卓 菊 井 上 信 賢 川 又 田 晋 吉 坂 部 美 木 村 村 恵 由 ひ かり	課 長 補 佐	高 橋 與 右 衛 門 中 川 重 紀 金 子 佐 知 阿 飯 坂 部 眞 一 阿 濱 田 藤 由 紀 安 高 佐 淳 星 菅 原 雅 半 杉 澤 靖 留 中 西 八 武 昭 村 澤 木 部 勝 則
文化財専門員		文化財専門員	金 子 佐 知 阿 飯 坂 部 眞 一 阿 濱 田 藤 由 紀 安 高 佐 淳 星 菅 原 雅 半 杉 澤 靖 留 中 西 八 武 昭 村 澤 木 部 勝 則
文化財調査員		文化財調査員	金 子 佐 知 阿 飯 坂 部 眞 一 阿 濱 田 藤 由 紀 安 高 佐 淳 星 菅 原 雅 半 杉 澤 靖 留 中 西 八 武 昭 村 澤 木 部 勝 則
期限付調査員		期限付調査員	吉 川 徹 北 田 田 和 吉 原 美 津 齋 藤 麻 紀 駒 木 野 智 寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第374集

古館遺跡発掘調査報告書

仙人峠道路工事関連遺跡発掘調査

印刷 平成13年9月21日

発行 平成13年9月28日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019)638-9001 FAX (019)638-8563

印刷 株式会社 長内印刷

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ三丁目3-28

TEL (019)643-5343